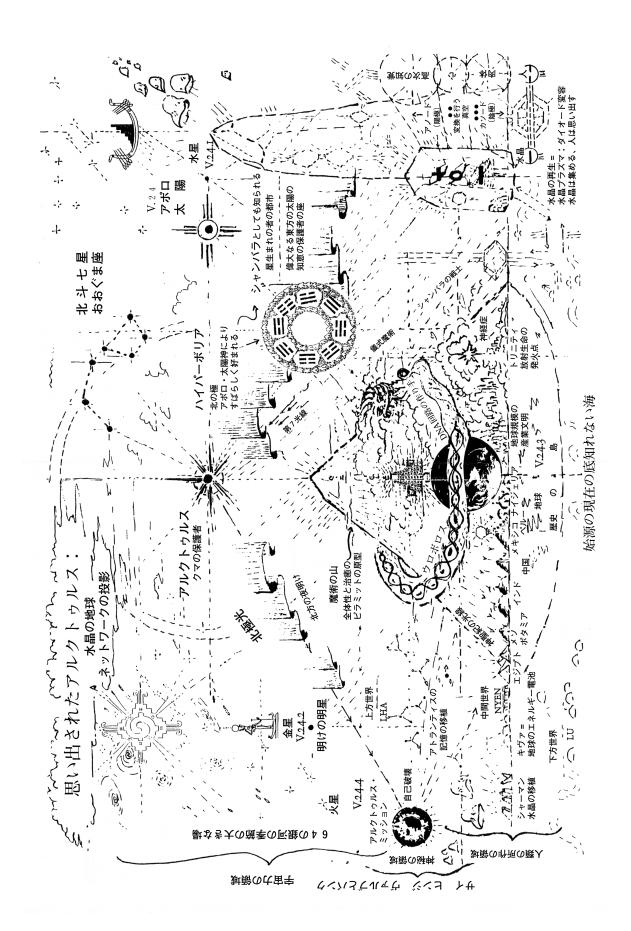
アルクトゥルスの監視

ホゼ・アグエイアス著

目 次

イントロダクション	3
・思い出されたアルクトゥルス:水晶の地球ネットワークの投影	
第1部 アルクトゥルス統制	11
・144日間のハーモニック・コンバージェンス/アルクトゥルスからの指令	
・144日間のハーモニック・コンバージェンスと 13 の月の回帰	
・アルクトゥルス統制、AD1993年	
・銀河の 11 章、時間の再組織化	
ウェイブスペルで数える144日間のハーモニック・コンバージェンス	
・アルクトゥルスから、目覚めたハーモニック・コンバージェンスの	
14万4千人の太陽の踊り手たちへの最後の呼びかけ	
第2部 アルクトゥルスの監視	33
・ウェイブスペル・リポート1「アメリカの没落」	
・ウェイブスペル・リポート2「聖なる戦士の回帰」	
・ウェイブスペル・リポート3「緑の中央の城への参入」	
・ウェイブスペル・リポート4「風の回帰」	
・ウェイブスペル・リポート5「ヴィジョンの回帰」	
・ウェイブスペル・リポート6「美の回帰」	
第 2 郊 	67
第3部 赤い惑星、青い惑星	0/
・ハーモニック・コンバージェンス9周年の宣言/最終的なトータル・リコール	
・白い水晶の世界の橋渡し/「赤い惑星、青い惑星」のアップデイト	



イントロダクション

思い出されたアルクトゥルス:水晶の地球ネットワークの投影

「アルクトゥルスは、朝夕、その槍を高く構える」

― ハーフィッツ (※訳注:イスラム経のコーランを全部暗記しているイスラム教徒に対する敬称)、シャー (※ 訳注:イラン国王、その称号) へ

「アルクトゥルスとその子星を導くことができるか」

---ヨブ記 38:32

中国人によって「大角」(だいかく、たいかく)と呼ばれたアルクトゥルスは、「皇帝の宮殿」として尊敬され、中国北京の紫禁城に対応していた。このことは、アルクトゥルスがこの惑星地球や、その地球も構成員となっている恒星系全体の進化に果たす決定的な影響力や役割があること、およびそれに関する重要な手がかりをもたらす。

アルクトゥルスは、大熊座との関係から「熊の守護者(番人)」とも呼ばれ、私たち自身の太陽系から37光年ほど離れている星系であり、そこには少なくとも半ダース(6つの)惑星があるとされている。このようにアルクトゥルスは、私たちの太陽とその太陽系よりも何倍も大きくまた古いものである。ときに、アルクトゥルス人は、私たちの太陽系のことをヴェラトローパ24と呼び、私たちの惑星地球をV24・3と呼んでいる。

私たち自身の太陽系とアルクトゥルスの関わりは、宇宙コロニー―銀河の中間駅―が、火星としても知られるヴェラトローパ 24・4で確立された頃、すなわち今から300万年以上前にはじまった。その頃、V24・4は、豊かな大気、海、川、青々とした大地を持つ温暖な周期の最盛期にあった。火星のコロニーは、アルクトゥルス人にとって、生まれ育った場所以外で行なったはじめての主要な実験を表わしている。

言うまでもないが、火星に到達する手段や、生命が繁殖する方法は、地上にいるほとんど誰もが想像もできないほど、はるかに進歩したものだった。「火星は、ふさわしい実験場とみなされていた」と言うだけで十分だろう。その理由は、植物や微生物を別にすれば、事実上、この惑星に固有の進歩した生命形態はいなかったからである。高次生命形態の移植は、注意深くなされなければならない仕事だった。まず第一に、その惑星の大気データの解読——その密度、化学的な組成、適応可能で調和的な生活体験ができるかどうかの順応性の問題。そして、迅速な進展が可能な遺伝子モデルを選べば、ときには数十億年かかるプロセスが、わずか3万年から4万年でときほぐされる、ひとつの公式にカプセル化しうることもあった。

火星の4万年の温暖周期は、このようなプロジェクトを推進するにあたって、実験のためには完璧な中間駅となった。もし何らかの過ちが生じても、少なくともアルクトゥルス系上の住民には影響がないだろう—あるいは、そのように考えられていた。火星プロジェクトを指揮する者たちのうちの一部は、カルマ、すなわち因果の法則の情け容赦のない効き目について十分に注意深く検討していなかった。だが当時は、アルクトゥルスにおいてさえも、現在の思考の瞬間よりも4万年も前に起こったことについては、何も思い出すことができない者がほとんどだった。

そして、火星、すなわち V 24・4 上で、奇妙な出来事が起こり始めた。もっとはっきり言うと、火星ではもちろん、アルクトゥルスでも、誰もがそれぞれ互いの存在について忘れるという奇妙な出来事が、最終的にどのような結末をもたらすかについて、思いを巡らす者はいなかったのだ。

こうして、アルクトゥルスの実験的な中間駅、V24・4、火星の物語が紐解かれていくことになる。 そう、実際に起こったこと—大いなる忘却—は、正確に言うと次のようなことだった。

そこには二つの巨大な王国があった。エリジアム(※訳注:別名「エリュシウム」/ギリシア神話では「エーリュシオン」等)と、アトランティスである。エリジアムは、北の磁極と、汚れなきアルクトゥルスによって監督されていた火星の磁極の駆動星座によって司られていた。これに対してアトランティスは、遥かなアンタレスの監督下にある南の磁極によって司られていた。アトランティスは、「セイレンの海」の泡立つ波頭に浮かぶ、輝くばかりにきらめくエメラルドの「冠」のようなものだった。これに対してエリジアムには、主要な環状の輸送用運河に囲まれた、細胞状の切り目の入った線を創り出す空色の潅漑用水路があった。これらの運河は、アマゾニスとメソガイの西に、そして荒涼としたゼフィリア(ゼピュロス、ゼピュルス)――そこから夏の季節風が生じる――の北に広がっていた。

ゼフィリアを超えて、さらに南のほうに向かうと、「セイレンの海」の熱帯の大洋が広がり、その神秘的なそよ風がアトランティスの騒がしい。島の塔からの信号と、調和的なハム音を漂わせていた。当時、すなわち火星がアルクトゥルスの実験によって完璧に制御管理され、教化され、太陽系ヴェラトローパに、進化した高次生命形態の可能性の輝くばかりの事例を示していた頃、火星人―彼らはもはや自分たちをアルクトゥルスの実験の結果生じたものと見なしてはいなかった―は、彼らをかつて存在させるようにしたまさにその宇宙の力をコントロールするのに、自分たちが十分な腕前を持っていると思うようになった。もちろん、彼らが自分たちのことをアルクトゥルスの実験から生じた幸運な者たちだったということを忘れていなければ、そしてアルクトゥルス人がこの価値ある実験を忘れていなければ―これはまさに汚れなきアルクトゥルスで実際に起こったことだが―次のようなことは何ひとつ起こることはなかった。だが、いまやそれは語られる。

火星で起こったことは、究極的には火星人がコントロールできるようなことではなかった。それは 実際には、アルクトゥルス、ハイパーボリア人(※訳注:ギリシア神話では、ヒュペルボレオス人/北方の常 春の地の住人の名)の親類関係と、ハイパーオーストラリア人の親類関係、アンタレス――中国の蒼竜(大 火、火)、プトレマイオスに「火星の対抗者」と呼ばれ、蠍座であまりにも目立つ星――のあいだに存 在した違いの結果生じたものだ。

もともとV24・4、火星に植え付けを行なったのはアルクトゥルス人だったものの、アンタレスからやって来た者たちは、この実験のうち、最初の3万年間は、火星コロニーとのコミュニケーションを確立しなかった。当然のことながら、アンタレス人の接触は特に南半球で優勢だった。これに対してアルクトゥルスの影響は少しずつ気づかないうちに、かつ無意識に、北半球に集中するようになった。そして実験を開始してから4万年経過して、重大な瞬間を迎えることになった。アルクトゥルスとアンタレスの双方について、本来その詳細を知っているべき者たちは、管理を怠り、眠ったようになっていた。「大いなる忘却」にもかかわらず、エリジアムと、その空中庭園やそこらじゅうに水晶がはめ込まれたピラミッドの塔は、「アルクトゥルスの旗じるしのハイパーボリア社会」の府として知られるようになった。そして、ここアトランティスでは、楽園のようなセイレンの海でゆっくりと輝き、回転する皿型の水晶反射電波望遠鏡が、「アンタレスの旗じるしのハイパーオーストラリア社会」の府として火星じゅうで知られていた。

モアブであれエデンであれ、あるいはタウマシアであれ、チューレであれ(※訳注: どれも火星の地名)、次のような一節が知られ、また歌われていた。

セイレンの海に宝石のように置かれた アンタレスが支配する、アトランティスは 水晶の波に乗り 燃えるような太陽を震わせる

アルクトゥルスが訓練したエリジアムは ため池で輪になって輝き 癒しの光の風が吹く エチオピス、イシス、あふれんばかりのアラブの原野を通り抜けて

確かに、エリジアムとアトランティスが権力を争うようになった頃、彼らは事実上、不運な火星上に残ったただ二つの王国となっていた。エリジアムの交易ルートとその権力のセンターは、ボレアの大北方大陸を超えて広がる、光り輝く水晶ネットワークを作り出した。タルシスとシャンテ、ユートピアとウチロニアから、ボレア人の軍団が、かつては穏やかだったエリジアムの原野の真ん中にある

中央ピラミッドの頂上に置かれている大水晶受信機へと貢ぎ物を差し出そうと、そこに向かった。

そのあいだ、大オーストラリア海を超えて、ヘスペリア、トリナクリア、シメリウム、そしてもちろん巨大なセイレンの海は、輝くばかりに船で飾られて、その帆は波風を受けてふくらみ、珪岩でできたオベリスクの舳先は輝き、誇り高きアトランティスへと向かっていた。

この静かな状況に、二つの不吉な傾向がわき起こり、火星の風に吹きさらされた海と原野全体に、大きな影をなげかけることになった。北方には、少しずつ侵食してくる「赤い砂漠」があった。一方、南方の海では、「黄色いふちよどみ」があり、船の航路がどんどん淀んでいた。砂漠は昼間のあいだあまりにも暑すぎ、どんな生き物もあえてそこに踏み込んでいくことはなかった。また夜は非常に寒く、まるで星々さえもがその動きを止めて凍りついているかのようだった。そして船の航路では、濁った黄色い蒸気から不快な匂いがたちこめていた。そして、そこに入り込む者は誰であろうと、確実に死がもたされることになった。これらが、火星全体の環境周期によって必然的に生じていることは、一部の者たちには明らかなことだった。だが、権力の座の近くにいる卑劣な者たちは、これらの出来事を、相手方の権力の座にいる極悪エージェントたちの仕業であるように思い込んだ。

これは特にアンタレスの神聖アトランティスではひどく、そこでは住人が平静さを失う段階にまで達して、恐慌がはじまった。迷惑な匂いは「黄色い海」の疫病と呼ばれるようになり、それはエリジアム人によって仕掛けられた病原菌による細菌戦争の一種だと思われるようになった。このような噂がアトランティス全体に広がり、アトランティスの支配者にも伝わった。

アトランティスの支配者の名は、国王ペラグス七世と言った。彼は、自分が彼自身と彼の王国の幸福を脅かしていることに対する理解力を欠いており、まさにそのために自分に不満を抱えていた。そのため「海の大法官」ポセイドニス・イアンブリクス、そして彼の味方であり妻である草花栽培省の大臣タラッサ・クリサリス夫人など、彼の内々の協議会数人のメンバーに扇動された。「職人と報道の大階級」の中で、新しく確立された組織「水晶分子変容協議会」の指揮官によって、彼らにだけ隠された情報をもとに、タラッサ夫人とポセイドニス大法官は、ペラグス7世と協議を行なった。

そして、この二人組が国王に伝えた情報と相談内容は次のようなものだった。

ハイパーボリアの海、北極の受信ステーションのこちら側にあるエリジアムの研究所で、人工的に 創り出された細胞が、命取りになる特別な宇宙放射線パターンで刻印された。これら伝染性の細胞組 織は、有機体を形成するにしたがい、個別の細胞を癌コロニーへと融合する水晶熱変換の形にされた。 これらのコロニーは、南方の港へと持ち込まれ、アトランティスの海底に大損害を及ぼすように、無 作為にさまざまな船の航路に置かれたというのだ。 このような話を聞いてぞっとして、ショックを受けた国王ペラグス七世は、それに関して何ができるかを尋ねた。二人の宮廷密通者は、「水晶分子変容協議会」の指揮官が彼らにもたらす情報により、レーザー光線到達システムをいち早く確立し、そうすることで迅速かつ正確に方向づけられた光線が、エリジアムの研究所や施設すべてを容易に非物質化(破壊)できると答えた。

このようにして「大いなる闘争」がはじまった。数カ月もしないうちに、アトランティスの「分子変容ステーション」は、そのうちいくつかは船上に、またその他は航空機で空中に運ばれ、ピラミッドが点在するエリジアムのハイパーボリア王国の中の鍵となる地点へと致命的な光線を向け始めた。信じられない状況を知って愕然としたエリジアムの教主ソリス・ソロニスは、あわてて不運にも報復措置をとることにした。それは、彼の参謀だった聖職者にとって深い驚きを呼び起こすにあまりあることで、彼はそのような行為は惑星の悪化する気候条件という状況を、さらにひどくする方向に向かうだけだと激しく忠告した。

このような忠告がなされたにもかかわらず、すべてはもう遅すぎた。水晶光線戦争の破壊的な爆発がはじまったのだ。それが最初にはじまってから一年もしないうちに、惑星の気候悪化はもはや取り返しのつかない状態になってしまったことが明らかだった。なかでも最悪だったのは、夏至の儀式の翌日、巨大な火山であるオリンピカが、火星の成層圏に向かって、まるでみずからを引き上げるかのような恐ろしい活動を開始し、爆発したのだ。東方のかつて青々と茂っていたアマゾニス地域は枯れて燃えた。いっぽう、目覚めた火山の震動は、アトランティスでもあまりに大きく、南方の水晶電波望遠鏡の反射器は揺れて、さらにそのうちいくつかは、砕けて大地に落ち、大きな災害をもたらした。恐慌と無秩序が、悪性の熱病のようにアトランティスじゅうに広がった。惑星の住民に対してそれ相応の不幸を宣告するお告げも現われた。

だが、最終的な打撃は、太陽を寄せつけない濃密で深い火山雲から生じた「大寒波」が襲ってきたことだった。だが、この雲がなかったならば、終焉はさらに早まったかもしれなかった。というのは、オリンピカ山からの突風が強烈だったために、すでに弱まっていた火星の磁場に大きな亀裂が生じたからである。その亀裂のために、外部からやってくる宇宙線や破片に対して、惑星は無防備な状態に変わった。すでに流星雨が多量に増大しており、惑星全体で新しい火山がいくつも戸惑うほどでたらめに噴火しはじめた。

この時点までに、アトランティスの支配者集団は、丁重さや礼儀をなくしていた。狂気に満ちた恐れとパラノイアにとらわれた彼らは、エリジアムのまさに中心地に対して、最終的な爆破で打ちのめすことを決定した。こうしてアトランティスのリーダーたちは、「さらなるエリジアムの反乱や暴動、および地磁気的な逆襲」と呼んでいたもの、そのすべての可能性を永遠に終わらせることにした。このようにして、究極的な武器——致死的な「分子変容非物質化装置」からの触発性を持つ光線で爆発する熱核装置——が開発された。

数カ月のうちに、燃え立つような暗い空の下、赤い砂ぼこりを含んだ風が、かつてのエリジアムとアトランティスの大都市に粉塵を巻き上げ、ヒューヒューとうなり声をあげていた。恐ろしいアトランティスの計画は、実行する準備が整っていた。緊急農業物資の交易任務のふりをしたダブル・エージェント・チームによって、やがて「Dデイ装置」(※訳注:Dematerialization/「非物質化(破壊)」の頭文字をとったと思われる)がエリジアムへと密輸され、ソリス・ソロニスの宮廷の中庭に到着した。この緊急農業物資の交易任務の6つの旅行かばんを誰も検査しようとは思わなかった。

また誰も、公式的に贈呈されたエリジアムの伝令神ソシスの彫像の中身を調べようともしなかった。その彫像は、ソシス神を型どったトカゲの頭をしたもので、すばらしい出来映えの作品で、明らかにネフライト(軟玉)のめずらしい種類からカットされたもの。そこにはジャスパー(碧玉)の飾りがはめ込まれていた。このような贈り物を受け取って喜んだソリス・ソロニス自身が、それをマスター水晶の前にある大祭壇の上に置いた。そのマスター水晶は、古代の祖先の神、アルクトゥル・アルクトゥリスによって伝えられた「水晶の鏡」のレプリカであるとも言われていたものだった。

緊急農業物資交易チームがエリジアムの高僧と会っていた頃、問題を深刻にとらえたエリジアムの小集団が現在の出来事に関する彼らの知識を論議し合うために集まった。彼らを駆り立て、立ち向かっているものは、ある種の災害であり、このような差し迫った悲運の気候のために、どのように振る舞うことがベストなのかを確かめるため、みずから集まったのだった。彼らは、熱核装置を開発するというアトランティス人の計画を風のたよりで受け取ったが、この集団の誰も、その装置がすでにエリジアムの最も内奥の宮廷に運ばれていることにはまったく気づかなかった。それにもかかわらず、この集団のひとりひとり誰もが、恐れと狂気の組み合わせが、アトランティスとエリジアム双方の住人をがっちりとつかまえていること、また、高度に荒れ果てた気候パターンがいまや当たり前になって、実弾頭と水晶致死光線の影響力により、すでにさらなる進化的な発展の基地としては、惑星火星にもはや可能性が残されていないことがわかっていた。

この自選 40 人のメンバーで構成される集団は、ほぼ同じ数でそれぞれの解決策を支持する集団に分かれた。20 人で構成されるひとつの集団は、集中化した集団瞑想に入り、火星の歴史の中でこれまでよかったことすべて—それが、エリジアムのものであれ、アトランティスのものであれ—を隣りの惑星 V 24・3 の雲海と生命層に伝達する思考力をつくりだすことによって、「大いなる惑星」を称えることに決めた。惑星 V 24・3 は、その当時、気持ちを落ち着かせる淡青色の輝きから、一般に「青い惑星」と呼ばれていた。確かに、青い惑星の輝きは崇高なものとみなされており、最も控えめな火星人であれ、その人が自分のホロスコープで、私たちに「地球」として知られている惑星が「上昇」(※訳注:西洋占星術で、生まれた時刻に東の地平線の近辺に特定の惑星が来ていることを指す)している場合、その事実を誇らしげに語ることはごくごく一般的なことだったのだ。

この集団は、「クォーツァイト(珪岩)」あるいは「静寂主義者」として知られ、自分たちの思考形態を焦点化し、それらを青い惑星に伝達するのにひとつの水晶を使った。そして彼らは、エリジアムの都市全体が「死の爆風」で引き裂かれた混乱の日まで、この作業を継続的に続けた。その日、都市は永遠に沈黙し、大規模な惑星の激変の波は解き放たれ、誇り高いアトランティス人は転落した。数奇で不運な火星上のすべての生物は最終的に消滅することになった。

だが、最終的な、燃えるように赤く激しく襲いかかった沈黙が訪れる前に、アルクトゥルスの活動家として知られるもうひとつの集団が、エリジアムの都市のはるか東側に向けて旅立った。彼らはその付近のピラミッドの高みから、よく配置された水晶レーザーで、「偉大な創始者のメーサ(台地)」の表面に、大いなる祖先の神、アルクトゥル・アルクトゥリス自身の巨大な肖像をしるした。その肖像は、空を見上げ、彼の故郷に顔を向けている。「ああ、失われた、あの清らかなアルクトゥルスよ・・・」

「焼却された」。アルクトゥルスの指令本部が、ヴェラトローパ系からやってきた電波水晶情報信号を分析していたときに、彼らの元へと届いた報告はこのようなものだった。類似の報告は、アンタレスでも受信された。

数日間のうちに、V24・4の情報報告は途絶えた。「自己破壊の実験」と、それは呼ばれるようになった。これまで長いあいだ関心を振り向けていなかったことを後に残してきてしまったことに対して、恥と恐ろしさに襲われたアルクトゥルス人は、銀河の遠征軍すべての大規模な再検討および改革を引き受けるべく駆り立てられた。

最終的に、いまやそれぞれ「赤い惑星」「青い惑星」として知られる V 24・4 と V 24・3 双方の監視を含む徹底的な分析の後、火星の実験で良かったこと、正しかったことのすべてに謙虚な尊敬の念を持って、青い惑星はもっと慎重かつ聡明に監督されるべきだと決定された。そこは火星と異なり、生命形態が非常に豊富で、数十億年にわたって自然に発展してきていた。その直観的な感覚器官を通して、青い惑星のより進歩した実体が、すでに火星-エリジアム-アトランティス-アンタレス人の記憶の移植を受け取っていた。良かれ悪しかれ、今度は、これらの移植が青い惑星の完全な想起システムに水晶接合された。この理由だけでも、青い惑星のその後の発展すべてが、アルクトゥルス・ミッションからの継続的な監視に値した。

さらに、高次のアルクトゥルス協議会では、火星上で行なわれたような、未知の惑星上で生命形態 全体を移植するような粗野で操作的な実験は、継続すべきでないと決定された。そして、その代わり にもっと微妙で、その都度変更できる受容力のある監視手段が選ばれた。これと同じことが、伝達手 段に純粋に焦点を絞ったアンタレスの実験からも学ばれた。この微妙な光の伝達システムをもたらす 主要な手段は、第7光線、紫の発光に焦点化し、それを増幅し、聡明に方向づけることによるものに なる予定だった。言い換えれば、この光線は、青い惑星に向けて放たれる周期的な伝達情報を発信す るために選び出される。そして今度は、この光線を「受け取った」人々が同様の、あるいはそれにふ さわしい方法で、その伝達内容を互いにやり取りできるようになる。 最も重要なことは、火星の実験のカルマ的な結末が、将来のある時点、青い惑星の進化のいまだ決定されていない時点で、ある種の「繰り返される行為」として現われることが予見されたことである。アルクトゥルス人の理解のすべては、この未来の時点に集中することになっていた。そうして、繰り返される行為の状況が熟したときに、今度はアルクトゥルスのエージェントは眠りこけることなく、かつてそうだったように彼らの紫の指令水晶中間駅で常に準備を怠ることはないだろう。

以上の概括は、「思い出されたアルクトゥルス」として知られる情報の要約である。それは、「水晶の地球ネットワーク投影」と呼ばれる。なぜなら、それは赤い惑星から青い惑星へと長い期間を経て伝達された結晶質の思考形態として投影された初期の瞑想移植、その記憶解放の結果生じたものだからである。

読むのだ、親愛なる地球人よ。そしてあなたの周囲をとりまく出来事、その高まる潮流についてよく考えてみるのだ。さらに目覚めて記憶を想起するのに、もはや遅いということはない。

思い出されたアルクトゥルス

伝達完了

1984年6月13日、満月。AH(※訳注:「アフター・ヒロシマ」の意で、広島原爆の年から数える年代表記法)38。

PANエージェント 24 によって提出される。

第1部 アルクトゥルス統制

144日間のハーモニック・コンバージェンス/アルクトゥルスからの指令

牛飼いの星、アルクトゥルスは、いまだかつてなかった大切な時間の提案、特にこの惑星地球に向けて計画された、144日間のハーモニック・コンバージェンスをここに提示することをたいへん光 栄に思う!

この144日間のハーモニック・コンバージェンスは、この惑星地球上のすべての人々のための計画である。実現されれば、それは人類と地球環境を新しい四次元の時間へと解き放つ、叙事詩的な規模のはてしない眺望の機会となる。144日間のハーモニック・コンバージェンス―それは、もはや見逃すことのできない機会だ。

地球と人類は、ついに144日間のハーモニック・コンバージェンスという無料の銀河の時間の贈り物を受け取る用意が整った。銀河文化—普遍的な平和の時代と、13の月の回帰—の入り口に交差するのに、144日間のハーモニック・コンバージェンスの時がかかる。

人類は、144日間のハーモニック・コンバージェンスを通して、宇宙船地球号の三次元世界を離れ、時間船の四次元世界に入り込む。この提案を有効に活用するために、あなたがなすべきことは、宇宙船地球号を支配している12か月のグレゴリオ暦と「歴史のドリームスペル」をただ諦めるだけ。あなたはその代わりに完全な「13の月の暦」を受け取り、銀河文化へと即座に解き放たれていく。

この移行をなしとげるために、銀河連盟は「歴史のドリームスペル」、12:60 の暦と時計を破綻したものとし、12 か月の暦や 60 分 1 時間によって支配されている、既存のすべての制度や行動形態に対して、〈銀河の 11 章〉(※訳注:米国の「破産法」第 11 章の「会社更生」の章を意識した表現と思われる。ここでは後述のように全部で 11 あるウェイブスペルに対応するので、そのまま訳している)による破綻宣告をした。〈銀河の 11 章〉は、時間の完全な再組織化を促す執行命令である。再組織化は、ひとたび人類が 13 の月の新しい時間に入り込めば自然に起こる。

144日間のハーモニック・コンバージェンスは、12か月のグレゴリオ暦から「13の月の暦」へとシフトするために提供される、銀河の自由の時間ゾーンである。

銀河文化は、『ドリームスペル:時間船地球2013の旅』の形で、誰でも贈り物として受け取ることができる。同調してほしい。ドリームスペルのことを思ってもらいたい。それは姿を見せはじめる。「13の月の暦」は、すぐにあなたの近くに現われる。それを注意深く見守っていてもらいたい。この144日間の提案は、1993年3月5日、銀河暦でキン1、<赤い磁気の竜>に始まる。この提案は、1993年7月26日、キン144、<黄色い磁気の種>—13の月の新しい時間に入る—におのずと成就する。

(ドリームスペルの)「キンの書:銀河の自由意志に基づく叙事詩」で、このキンの行進に、キンごとに従おう。

<誕生>の竜の創世記から<魔術>の猿の創世記へと、時間の城を通って進む。

それぞれ 13 キンある 11 の完全なウェイブスペルを通って、<銀河の 11 章>を制定する。

銀河の自由の日、1993年7月25日、キン143、<青い宇宙の夜>に、地球とともに永遠へ とみずからを解き放つ。

キン144、<黄色い磁気の種>、新しい「13の月の暦」の最初の月である<磁気の月>の最初の日、1993年7月26日に、<惑星の開花>である種のウェイブスペルの新しい時間へと入ること。その日、誰もが時間船への乗船を歓迎される。

時間船地球2013:冒険が始まった

144日間のハーモニック・コンバージェンス

144日、144キン

それ自らの数字で倍増する

144000人の虹の国家の目覚めた太陽の踊り手たち

13 の月の回帰を踊ろう 銀河文化の到着を踊ろう 普遍的な平和の時代がやってきた 地球全体が踊り、揺れ動く

「13の月の暦」は、銀河の平和条約

この公的奉仕の宣告は 牛飼いの星、アルクトゥルスから あなたにもたらされました

クラトゥ・バラダ・ニクト! 銀河連盟は静かにやってくる!

144日間のハーモニック・コンバージェンスと 13 の月の回帰

1993年3月5日金曜日は、銀河スピン9、13の月の動きでキン1、<赤い磁気の竜>。あらゆるところで、<ドリームスペルの虹の国家>の集いにより記念されるこの日は、144日間のハーモニック・コンバージェンスをはじめる日。144日間のハーモニック・コンバージェンスの終了は、7月26日、銀河スピンのキン144、<黄色い磁気の種>である。この惑星的な集いは、最初のハーモニック・コンバージェンスを引き起こした14万4千人の<目覚めた太陽の踊り手たち>に対してなされる。そして、彼ら自身を喚起させ、144日間のハーモニック・コンバージェンスを再び踊る。これは、ハーモニック・コンバージェンスが銀河文化の生き方であることを示すだろう。

144日間のハーモニック・コンバージェンスのゴールは、12か月のグレゴリオ暦に代わる完全な「13の月の暦」を、キン144、<黄色い磁気の種>に履行すること。キン1からキン144までに、11の完全なウェイブスペルがある。これらの最後は、猿のウェイブスペルで、それは猿の創世記、<キャメロットの回帰>のはじまりの時となる。このウェイブスペルは、7月13日から25日まで起こり、その最後の日、13・夜、7月25日は<緑の日>、銀河の自由の日。多くの戦略が同時発生的に開発されつつあり、このプロセスが世界規模で、かつ有効であることが明らかになる。それは、やがてわかるだろう。

あなたを支援し、導くために、私たちは贈り物を同封する(※訳注:1992年の秋、「13の月の暦」の コピー用原版が無料で配られたことを指す)。それは、ランディ・ブルーナー(13・手)の作品、<青い宇 宙の嵐の年>の「13の月の暦」の完全なテンプレートである。それぞれ13の月には、13の絵がつ いています。壁掛け用の他のカレンダーと同様に、これらの絵は、それぞれそれにふさわしい月の上 にくるようになっている。あなたの受け取ったマスター(原版)から、このカレンダーをスパイラル 式のバインダーで閉じ、コピーをとって、あなたのネットワークの人たちに贈り物として配布してほ しい。

この「13 の月の暦」は、銀河の平和条約である。この暦が人類によって受け入れられること—それは、それ自体で、平和を実行に移す前代未聞の行為となる。すなわち、新しい時間に生きるすべての人々のあいだでの取り決め(条約)だ。ドリームスペルは、この新しい時間に生きることを学ぶ道具の贈り物である。

四次元とは時間。はじめるのにちょうどよい時間は、いまだ! 青い宇宙の嵐の年 倍音の月16日 キン166 白い惑星の世界の橋渡し

アルクトゥルス統制、AD1993年

1 AD とは < Anno Domini>ではなく、 < Arcturus Dominion>。

AD1993。AD。それは〈アンノ・ドミニ〉、すなわち「私たちの主の年」ではなく、AD、すなわち〈アルクトゥルス統制〉(アルクトゥルス・ドミニオン)である。あなたは、新年のお祝いをするたびに、カトリック教会の時間と歴史のヴィジョンを維持することに手を貸すことになるのを知っていただろうか? 新年になると、あなたはひとつのグレゴリオ暦の年の終わりを祝い、そして新しい次の年がやってきたことを祝う。このようになったのは、1582年、グレゴリオ暦がバチカンによって布告され、暦の最終的かつ決定的な形になってからである。年の数え方で、それぞれひとつの AD、「アンノ・ドミニ」は、イエス・キリストが生まれて以来ずっと、時間の数え方となっている。この数え方は、それぞれの千年紀(ミレニアム)の終わりに予定されている〈再臨〉で終わる。次の千年紀は、七年後に終わる。したがって、いま AD について考えてみるのによい時なのではないだろうか。〈再臨〉はあるのか? 時間と歴史の終わりはあるのだろうか?

1582年から多くのことが変わった。だが、暦は変わっていない。1582年につくられたもので、今もあなた方が従っているものが他にあるだろうか? あなた方はあらゆるものの最新型を欲しがるのに、暦はどうだろうか? 私たちは生活の中であらゆるものを試験しそれを変えたが、このバチカンの暦だけはそうではない。なぜだろうか? それはグレゴリオ暦が、人類の心に対してバチカンの権力を維持しつづける手段となっているからだろうか? 実際にすべての政府は、グレゴリオ暦の年に応じて予算組みをしている。もし人類が完全で規則正しい暦を導入し、それを受け入れたなら、バチカンと世界のすべての政府はどうなるのだろうか?

すでに、この惑星上には新しい暦と、その暦とともにもたらされる新しい時間がある。グレゴリオ暦の不完全な12の月ではなく、この新しい暦は、1か月28日の13の月で完全に数えられる。そして、この新しい暦は私たちがすでに知っている年を数え続ける。したがって、AD1993年に変わりがなくても、ADは、アンノ・ドミニを表わすものではない。それは、アルクトゥルス統制を表わす。そして、いまやアルクトゥルス統制の時であり、もはやアンノ・ドミニではないために、千年紀は7年早く来た!

2 アルクトゥルス統制:2013年への20年間のカウントダウン

次の千年紀まで7年を残す段階で、アルクトゥルス統制は、この惑星と人類の未来のために介在した。それは、バチカンの時間の数え方を阻止し、新しい時間と歴史のヴィジョンを宣言する。アルクトゥルス統制は、イエス・キリストの霊的な意味を認めるが、その意味に対するカトリック教会の支配は認めない。それがゆえに、AD1993なのであり、アルクトゥルス統制は、アンノ・ドミニ、「バチカンの考える、私たちの主の年」ではない。

そう、アルクトゥルス統制。私たちはひとりではない。牛飼いの星、アルクトゥルスは、適切にもこのような名前を持っている。それは、この牛飼いの星の知性が、長いあいだ私たちの惑星を導く影響力をふるい続けてきたからである。この影響力の性質は、霊感に満ちたものであり、四次元的なものである。それは私たちの三次元の目には見えないが、イエス・キリストのような地球上の偉大な人々の想像力と霊的な真実にとって、テレパシー的にリアルなものだ。

地球上にいる私たちにとって、このアルクトゥルス統制は、AD 2 0 1 3 年への 20 年間のカウントダウンとなる。AD 2 0 1 3 年は、地球の現在の進化周期のオメガ点である。これらの 20 年間の最初の7 年間は、人類が新しい時間の中を進み、「非常に優れており高度に組織化されながらも、新しくかつ柔軟なライフスタイル」の恩恵を体験できる期間だ。また 20 年間の残りの 13 年間は、人類が四次元の時間— 光の連続体を体験する期間である。

13 の月という新しい時間の秩序をもたらす力を通し、人類は自らの必要に応じて、前もって何を優先すればよいのか再び取り決め、自分の環境を掃除し、新しい社会秩序の基礎を確立することができる。その秩序とは、地球と調和し、同時に銀河の知性の秩序にも同期したものである。この銀河の知性の秩序は、銀河連盟と呼ばれる。アルクトゥルス統制は、銀河連盟の中の領域のひとつだ。銀河連盟と調和して行為することで、アルクトゥルス統制は、三次元の物質主義によって消耗させられた地球上の生物種や惑星そのものの精神的なリハビリテーションを担う。

アルクトゥルス統制は、すでにこの惑星上のさまざまなプロジェクトを後援している。その中にはマヤの初期の暦のプロジェクトも含まれている。グレゴリオ暦はこの惑星の「公式的な」暦であるかもしれない。だが、最も正確な暦はマヤのそれだ。四次元の計時基準を元にした古代マヤの暦の数学的な秩序は、グレゴリオ暦の一途な不規則性と嘘っぽい直線性をはるかに凌ぐ。

マヤの暦法の元となる計時基準は、AD1987年8月16~17日のハーモニック・コンバージェンスに、現代世界でテストされた。この実験の成功の結果、アルクトゥルス統制は、マヤの暦の完全な証明として利用できるようになり、人類のための正当な計時尺度としてマヤの年の数え方を復権させた。これらの証明とその道具は、『ドリームスペル、時間船2013の旅』、および「13の月の暦」として知られている。これらの計時装置は、AD1992年7月26日に、12:60の三次元の時間の計時周波数から、13:20の四次元の時間の計時周波数への、一年間の移行=「タイムシフト」

を促進する手段として、この惑星上で手に入るようになった。アルクトゥルス統制:それは四次元の 時間の合法化である。

3 アルクトゥルス統制の保護領:もはや後戻りはできない

AD1993年1月1日現在、いまや260キンの銀河スピンと「13の月の暦」に従っている2万人の四次元のシード・ヒューマン(核となる人類)のおかげで、惑星地球はアルクトゥルス統制の保護領であることを宣言した。地球の計時周波数は、いまやアルクトゥルス統制の計時周波数との同期調整をはじめている。

惑星地球のアルクトゥルス統制の保護領は、銀河連盟のために、惑星統治を創造するのに不可欠な 脱国家と脱制度を目的として確立された。次の進化段階の発展への移行を成功裡に成し遂げるために、 人類はすべての制度的な規範や規制からみずからを引き離さなければならない。四次元の時間のコー ドにみずからを完全に乗せ、みずからの自律性を引き受けることで、人類はかつてないほど開花する。 その結果は惑星統治、生態地域的な自律性に基づくひとつの連盟となり、それは人類の自由意志の達 成という最高の栄誉となる。

惑星統治は、アルクトゥルス統制が惑星地球にもたらす惑星平和条約を受け入れることで保証される。惑星地球は、これから先、<時間船地球2013>として知られるようになる。

銀河の惑星平和条約の受け入れは、この条約を人類が普遍的に採用することで実現される。それは、これから先、「13の月の暦」として知られるようになる。「13の月の暦」は、銀河の平和条約である。

この条約は、1993年7月26日、「タイムシフトの年」を締めくくる、磁気の月1日、<黄色い磁気の種>までに受け入れられ、制定される。「13の月の暦」を人類が普遍的に採用することで、銀河の平和条約の条項は、今後20年間にわたって人類の自由意志が13:20という銀河の計時周波数に応じてみずからの種を再コード化する機会をもたらす。

この20年周期、すなわち時間船2013のアルクトゥルス統制の保護はまた、マヤの大周期の260番目で最後のカトゥン、<黄色い宇宙の太陽>、惑星地球における銀河の太陽紀の夜明けの必要も満たす。この保護の成功裡の完了、AD2013年は、新しい惑星進化の周期を保証する。アルクトゥルス統制、もはや後戻りはできない。

4 アルクトゥルス統制:ハーモニック・コンバージェンスが惑星の生き方になるのを見届 ける

「時間船に全員乗船!」が、この<青い宇宙の嵐>の年、タイムシフトの年、AD1992年7月26日~AD1993年7月25日に、すべての人類に向けられたアルクトゥルス統制の呼びかけである。時間船地球2013のアルクトゥルス統制の目的は、ハーモニック・コンバージェンスが、ひとつの生き方になるかどうかを見届けることだ。これは、ひとたび人類がタイムシフトを耐え抜き、完全に13:20の計時周波数に入り込むことができれば成功裡に起こり得る。

このタイムシフトの銀河太陽年、<青い宇宙の嵐>は、二つの周期によって成り立っている。新しい銀河のスピンが登場する AD 1 9 9 3 年 3 月 5 日で二つに分けられる、タイムシフトの年の最初の周期の222日(AD 1992年7月26日~AD 1993年3月4日)は、12:60の計時周波数という古い秩序の継続的な溶解を促進する。銀河連盟は、この期間に惑星の物質主義、12:60の文明に対して「11章」の破綻宣告を課した。

第二の周期の144日間、1993年3月5日~7月26日は、144日間のハーモニック・コンバージェンスとして知られている。そしてこれは<青い宇宙の嵐>の年の142日間と、緑の日(7月25日)および新しい銀河太陽年の最初の日、<黄色い磁気の種>の日を含んでいる。新しい銀河スピンの最初の144日を含むこの144日間のハーモニック・コンバージェンスは、すべての人類にとっての時間船地球への乗船準備期間となり、AD1993年7月26日、キン144、<黄色い磁気の種>に、新しい13:20の計時周波数へと完全に入り込む機会をもたらす。

この144日間は、それぞれ13日ある11の完全なウェイブスペルを含み、それは、エントロピー的な物質主義の12:60 文明として知られている人類-惑星状況への宣告、銀河の「11章」の破綻命令を制定する。「11章」は時間の再組織化を召集するものなので、人類は、「13の月の暦」、銀河の平和条約を容易に受け入れ、それを採用するのに必要な二つの戦術を遂行するべく、この144日間のハーモニック・コンバージェンスを活用するよう奨励される。

- 1) グレゴリオ暦という現在の地球規模の暦法規準を捨て去り、それを条約の日付である AD 1 9 9 3 年 7 月 26 日までに「13 の月の暦」に取って代えること。そして、
- 2) すべての国家的/制度的/企業・経済をゼロ予算、すなわち毎月の最初の日に繰り返される状態に戻すこと。

新しい時間のさらなる前進運動を確実にするため、金銭はもはや投資の対象とはならない。世界の 金銭余剰分の帳簿がつけられ、富の均等な再配布を確実にする方法で、世界の金銭供給の支払いのた めのガイドラインが作成される。それは金銭そのものが自律的な交換という再定義された形に取って 代わるプロセスで為される。これから先、金銭はそれと等価の日用品あるいはサービスに対して自律 的に同意されたものの代わりとなる、自由に交換されるひとつの日用品としてのみ使われることにな る。

企業を含めてあらゆる政府や制度は、アルクトゥルスの保護領そのもののモデルに応じてみずからの役割を再定義する仕事をはじめる。したがってあらゆる政府や制度は、時間船地球の保護領体として知られるようになる。時間船の保護領体の移行的な形態は、ゼロ予算によって月ごとに運営され、<地球のためのキャンペーン>として知られる環境安定化の倫理に応じて何を為すべきかの優先順位を決めることができる。アルクトゥルス統制:それは、ハーモニック・コンバージェンスがひとつの生き方になるのを見届ける。

5 アルクトゥルス統制の<地球のためのキャンペーン> AD1993~2000年

13 の月の銀河時間では、あらゆる力は、個人存在の自律性の中にある。アルクトゥルス統制のく地球のためのキャンペーン>の目的は、地球との生態地域的な関係における、人々の自律的な必要性へとあらゆる品物とサービスを分解し、戻すことにより、あらゆる既存の 12:60 の制度がみずからを解体させるのに必要な時間を割り当てることにある。これは、この惑星上のあらゆる人々が、人類の運命を理解し、それを新しく再定義し体験する機会をもたらす。そして同時に、環境との関係における人類の行為を再び前もって優先順位づけすることは、やがてひとつの人類が前代未聞の惑星ルネサンスを楽しみ、その<最初の陣痛における地球の激しい創造的な回復>および<地球への回帰>を成し遂げることにつながる。

<地球のためのキャンペーン>に割り当てられた時間は、7年間—AD1993年7月26日の< 黄色い磁気の種>からAD2000年7月26日の<青い銀河の嵐>まで—である。この7年間は、銀河の平和条約、「13の月の暦」の即座の採用という、アルクトゥルス統制の提案により古い千年紀から買い戻された時間量である。

7年間の<地球のためのキャンペーン>の終了、人類の自律性の獲得、すべての仲介制度の普遍性 と自由は、アルクトゥルス統制の惑星保護領となる予備的な必要を満たす。

<青い銀河の嵐>、AD 2 0 0 0 年 7 月 26 日から、<黄色い銀河の種>の AD 2 0 1 3 年 7 月 26 日まで、アルクトゥルス統制の<地球のためのキャンペーン>によって獲得されるこの惑星の並外れた安定化は、すべての人類が、次元間の惑星キンとして進化の可能性を十全に実現する方向にみずからを解き放てるようにする。

そして、AD1993年、アルクトゥルス統制ですべてがはじまる! AD1993年1月1日、<白い電気の鏡>の時点で、260キンの銀河スピンと「13の月の暦」に従う人々の影響は、惑星地球がアルクトゥルス統制の保護領になることを即座に可能にした。AD1993年1月17日、キン214<白い律動の魔法使い>に、希望の鐘のハーモニック・コンバージェンスは、第42代米国大統領、ビル・クリントンのワシントンDC到着を先導する。クリントンは、キン217、1月20日、<赤い太陽の地球>に、就任の宣誓をする。この日はまた、米国の運命の実現を開始する日でもある。それは、銀河スピンのキン217は、AD1776年7月4日、独立宣言の調印がなされた日でもあるからである。

クリントンが奏でるアメリカの運命の実現は、1987年8月16~17日のハーモニック・コンバージェンスのすぐあとの、ミハイル・ゴルバチョフの媒介した惑星平和の主導を完了させるものでもある。ひとりのロシア人、ゴルバチョフが冷戦のイデオロギー的な構造を非制度化することで平和のプロセスをはじめたように、ひとりのアメリカ人、クリントンがアメリカという世界で最も物質的に豊かな国を導くことで、銀河の平和条約の条項を受け入れ、制定する最初の例となるこのプロセスを

完了できる。

このようにしてクリントン大統領は、アメリカの夢想に満ちた偉大さを回復させ、それを<地球のためのキャンペーン>の最優先順位に置く。すべてのアメリカの予算上の/政府の優先項目は、時間船の保護領体として機能することで、<地球のためのキャンペーン>の13:20の計時コードに応じて再組織化される。その他の政府や国家の規範となるモデルを確立することで、地球のためのひとつの偉大なる惑星動員が成し遂げられる。

アルクトゥルス統制の保護のもとで、金銭を含むあらゆる政府や制度は、1998年7月26日、 <赤い律動の月>までの5年間の期間を与えられ、自らの資源のすべてを、清浄な地球の確立へと効果的に向けなおし、そして人類を自律的で創造的、生態地域的な集団へと再組織化する。<地球のためのキャンペーン>の最後の2年間は、AD2000年の惑星的な極の安定化に備えて、共通のテレパシー的な回路の上に人類を備え付けることに活用される。アルクトゥルス統制:それは、自然に対する物質主義の戦争を終わらせることである。

6 <宇宙船地球号>ではなく、<時間船2013>。

平和条約は準備された。地球はいまや13の月の時間に回帰しつつある。<時間船地球2013>が到着している。時間船を埠頭につけるのに、144日間かかる。キン144、AD1993年7月26日に、時間船は完全に埠頭に入り、地球上のすべての存在は、自動的に乗船する。キン1、<赤い磁気の竜>、1993年3月5日から、キン144、<黄色い磁気の種>、AD1993年7月26日までの、144日間の時間船の埠頭入りは、惑星の通過儀礼である。それは、<宇宙船>を時間船に取って代える儀式だ。

宇宙(空間)船地球号の空間は底を尽いた。時間船に戻る時だ。宇宙船地球号はもはや存続可能な概念ではない。その概念自体と同様、宇宙船地球号は、銀河時間の広大な海の中に浮かぶ半自律的な三次元の泡沫である。

宇宙船地球号の三次元の泡沫の中では、空間はひっぱりだこで珍重されている。地球規模での人類の増加や繁殖は、その三次元の飽和点を迎えた。もはや余分な空間はない。地球規模での物質主義の増加や繁殖のエントロピー的な限界に到達したのだ。進化と自己破壊のあいだに微妙なバランスが存在している。その微妙なバランスの空間を定義することが、144日間のハーモニック・コンバージェンスとして知られる時間の渦にほかならない。

144日のハーモニック・コンバージェンス:それは、時間における空間、空間における時間。二つの世界のあいだの裂け目を交差する144日間。自己破壊の道筋から、自己創造の道筋への移行。3月5日、<赤い磁気の竜>に、<宇宙船地球号>に空間がもはやないことが宣言される。残されたのは時間だけ。その裂け目のこちら側は、第四の世界、三次元の空間の世界。その裂け目の向こう側は、第五の世界、四次元の時間の世界である。空間の世界を去り、時間の世界に入ることは、あらゆる預言をその共通の韻律へと呼び戻すことである。

<宇宙船地球号>ではなく、<時間船2013>。宇宙船地球号を去ることで、20 年間のアルクトゥルス統制の保護領へと入り込む。アルクトゥルス統制、時間船が AD2013年に次の航海へと乗り出す準備をする20年間。アルクトゥルス統制。再び神秘を呼び起こす7年間。時間-光の連続体の波に乗る13年間。そしてそれはすべて、AD1993年3月5日~7月26日までの144日のハーモニック・コンバージェンスで現実となる。

7 二つの世界のあいだの裂け目と預言の実現:144日間のハーモニック・コンバージェンス

AD1993年。7年早く、千年紀にようこそ! 時間はいまや銀河的に回転しているために、古い台本は終わり、千年紀が到来した。古いゲームや物事の処し方は、もう役に立たない。12:60の文明は、それみずからの死の罠となっている。相互同意の知覚による夢を公式化する架空の幽霊は、これが唯一の方法であるかのようにふるまっている。彼らは、古いグレゴリオ時間のしでかした物質主義の世界にしがみついている多くの者たち。だからアルクトゥルス統制は、終わりの時間。それは、妄想的な三次元の時間の終わり。妄想的な時間が終わるとき、預言は実現される。

だが、「終わりの時間」は、実際には「時間の終わり」ではない。空間だけが限られたものである。時間には、はじまりも終わりもない。妄想的な三次元の時間が底を尽いたときに――いまそのようになっているが――四次元の真の時間が新たに体験される。地球の中から、諸元素の中から、そして私たち自身の中から再びわき起こる四次元の時間の最初の現われは、まるで私たちの目覚めつつある生命がそのありのままの姿で揺さぶられるかのようであり、それが夢であることが明らかにされる。

啓示、預言、そして黙示は、ひとつのドリームスペルが終わり、そしてもうひとつのドリームスペルがはじまりつつあるときに生じるエネルギーの現われにほかならない。240年間にわたって、人類は、産業物質主義のドリームスペルを生きてきた。5200年近くにわたって、人類は、歴史のドリームスペルを生きてきた。いま終わりつつあるのはこのドリームスペルだ。次に何が来るのか?信念体系が崩れ、このドリームスペルがこなごなになるときに、何が起こるのか?

さまざまな預言が、天国、最後の審判、世界の終末、正義の勝利について語っている。また、その他の預言は、ひとつの世界の終わりと次の世界のはじまり、失われた銘板(石板)の復帰、失われた 部族同士の再会、起源の使節が再び集結することについて語っている。

これらすべての預言に敬意を払い、それらをいっしょにして、体験し、実現するために、アルクトゥルス統制は、銀河の自由な時間ゾーン、144日間のハーモニック・コンバージェンスを宣言した。これは、これから先、「二つの世界のあいだの裂け目」として知られる。この裂け目の片側は、<黄色い宇宙の太陽>、銀河スピンのキン260、AD1993年3月4日。その裂け目のもう片側は、<赤い月の蛇>、キン145、AD1993年7月27日である。

この裂け目のこちら側は、終わろうとしつつある世界、ホピの預言の第四の世界、キリスト教の預言の千年紀、鉄の時代、グレゴリオ暦と 60 分1時間に支配されている地球規模の物質主義の 12: 60 の文明である。これは、時計回りにまわり、わき起こる戦争、貧困、不正、汚染という潮流に対して、エントロピー的に摩滅する機械の世界。これが、それ以外どこにも行けない<宇宙船地球号>である。

二つの世界のあいだの裂け目のもう片側は、第5の世界、中心の時代、預言の実現する時代、260番目のカトゥン、<黄色い宇宙の太陽>、地上の天国、13の月の道。これは、反時計回りにまわり、生命原子的な再生の時代を開く、銀河文化の13:20の世界である。これが、<時間船地球2013>で、いまや偉大なる航海への準備を整えている。

三次元の空間の世界と、四次元の時間の世界という、これら二つの世界のあいだに、AD1993年3月5日から7月26日までの144日間のハーモニック・コンバージェンスがある。地球の浄化のとき。惑星キンとしての自らのアイデンティティを再び目覚めさせるとき。物質主義、空間の堕落を捨て去り、時間を生きることをもう一度学び、みずからの根源の存在を育成し、芸術を通して空間を再生させるとき。人類にとって、進化の極性は、物質主義と芸術のあいだにある。物質主義は常に浄化されなければならず、これに対して真の芸術は、みずからの自己超越をもたらす。時間は芸術であることを知るときだ。

144日間のハーモニック・コンバージェンス、二つの世界の裂け目は、四次元の時間の起源の完全な再現でもある。それぞれ13日ある11の完全なウェイブスペルは、歴史の前の失われた時間、原初の<竜の創世記>の10のウェイブスペルと、<猿の創世記>の最初のウェイブスペルを通して広がる、記憶のひとつのテンプレートをもたらす。これらのウェイブスペルが、143日間のハーモニック・コンバージェンスをカバーする。144日目の日は、キン144、<黄色い磁気の種>、AD1993年7月26日、第12番目のウェイブスペル、「13の月の暦」の、新しい銀河太陽年の最初の日。

「そして、燃える青い城の第4の門を通って到着したのが、 開花のウェイブスペルを放つ種のウェイブスペルだった。 13の月の魔術的な輝きが人の庭園を超えて、 猿の創世記の魔法を織りなした」(<ドリームスペル創世記>)

二つの世界の裂け目:それは、思い出すとき。地球の浄化のとき。普遍的な平和の時代に備えるとき。あらゆるところで祈りと瞑想に集うとき。あらゆるところで新しい<ドリームスペル>のニュースを告知するとき。私たちが過去の聖職者たちの閉ざされた秘密から立ち去り、自然時間の階層構造という開かれた情報へと入り込みつつあることを宣言するとき。あなたを通して、二つの世界のあいだの裂け目を結ぶ虹の橋をかけるとき。そう、千年紀へと突進するとき!

8 アルクトゥルス統制の 13 ステップ・プログラム、ドリームスペル・メディスン・ショ

病気は唯一、ひとつだけある。それが、12:60 の計時周波数。ひとつだけ治療法がある。それが 13:20 の銀河の計時周波数。12:60 の病気、すなわち時間の記憶喪失症を癒す治療薬、それが < ドリームスペル、時間船 2013 の旅 > である。

12:60 の病気の治療法を提供しながら、新しい時間を普及させるために、アルクトゥルス統制はこの惑星上のあらゆるところで、いまや「ドリームスペル・メディスン・ショー」を上演するよう呼びかけている。「ドリームスペル・メディスン・ショー」は、ドリームスペルの日常の真実を実演することで銀河時間の13ステップ・プログラムに従う、「自律的な匿名(AA)」人類の集団に焦点が当てられる。

13 ステップ・プログラムは簡単だ。為すべきことは、13 キンのウェイブスペルにウェイブスペルごとに従うだけ。もしあなたが真にウェイブスペルの 13 ステップ・プログラムに従えば、銀河時間の統合されたリズムに適合するように、みずからの生活を再組織化することになる。「13 の月の暦」の銀河の平和条約もまた、ひとつのウェイブスペルである。より多くの人類が 13 ステップ・プログラムに入り込めば入り込むほど、13 の月は、それに従うすべての人々を統一する、ひとつの集合的な 13 ステップの惑星サービス・プログラムとして体験されるようになる。

144日間のハーモニック・コンバージェンスのあいだに、ドリームスペル・メディスン・ショーは、思うがままに自由に為されなければならない。もしこの13の月が癒しの道筋であるのならば、それをそのようにするのはドリームスペルの治療薬である。薬は、健康の回復のための手段だ。ドリームスペル治療の道筋に従うことで、あなたは、あなた自身を癒し、この惑星を救う自由意志である13:20の意識の薬を見い出すだろう。

すべての人類が 13 の月の道筋にみずからの道を見い出すにしたがって、すべての人々は、ドリームスペルによる治癒が、すべての病気に対する恐れからの解放であり、それらの病気に終止符を打つものであることをみずから発見する。自律性の中に健康がある。自律性の中に力が内在する。<自律的に匿名>(AA)であることで、ドリームスペル・メディスン・ショーは、人々に癒しの力をもたらす。みずからを癒すことで、人類は、もはや人類ではなく、惑星キンになる。惑星キンになることで人々は、正しく生き、正しく死ぬことが、自律的に成し遂げなければならない個人の責任であることを知るようになる。政府や外部的な権威はもはや二度と必要がなくなる。生と死、そして空間と時間の次元を統一する新しい方法が知られるようになる。すべては、時間船2013上で、健やかになるだろう。

1 4 4 日間のハーモニック・コンバージェンスのあいだ、ドリームスペル・メディスン・ショーは、 銀河の 11 章の破綻宣告で指令された時間の再組織化を実現すべく、それぞれ 11 ある完全な 13 キン のウェイブスペルを表現する、公的なパフォーマンスや展示を通して、13 ステップ・プログラムの 力を実演することになる。

銀河の11章、時間の再組織化/ウェイブスペルで数える、144日間の ハーモニック・コンバージェンス

<竜の創世記 回転の赤い東の城>

- 第1章 赤い竜のウェイブスペル 誕生の力キン1~13 3月5日~17日新しい時間に入る—時間をかけて学ぶ。
- 第2章 白い魔法使いのウェイブスペル 永遠の力 キン14~26 3月18~30日 四次元を体験するのに時間をさく。
- 第3章 青い手のウェイブスペル 遂行の力 キン27~39 3月31日~4月12日 人類と惑星の癒しのための相互知識を発生させ拡大する。
- 第4章 黄色い太陽のウェイブスペル 普遍的な火の力キン40~52 4月13日~25日太陽的になることを決意し、それに備える。

<竜の創世記 交差の白い北の城>

- 第5章 赤い空歩く者のウェイブスペル 空間の力キン53~65 4月26日~5月8日あらゆる霊的な真実を探求し、それをひとつにする。
- 第6章 白い世界の橋渡しのウェイブスペル 死の力 キン66~78 5月9日~21日 ひとりの盟友および資源としての死と合意に達する。
- 第7章 青い嵐のウェイブスペル 自己発生の力 キン79~91 5月22日~6月3日 すべての人が生存している生物圏との密接な関係を理解する。

第8章 黄色い人のウェイブスペル 自由意志 キン92~104 6月4日~16日 銀河の自由意志が暗示する事柄を理解する。

<竜の創世記 燃える青い西の城>

第9章 赤い蛇のウェイブスペル 生命力の力 キン105~117 6月17日~29日 新しい時間を生きるために備え、資源(方策)を集める。

第 10 章 白い鏡のウェイブスペル 果てしなさの力 キン1 1 8~1 3 0 6月 30日~7月 12日 戦争をやめる。時間の果てしなさに入る。

<竜の創世記の終わり/猿の創世記の始まり>

第11章 青い猿のウェイブスペル 魔術 キン131~143 7月13日~25日 12:60のエントロピーから、13:20の魔術へと解き放たれる。

AD1993年7月26日、キン144: <黄色い磁気の種>。 開花のウェイブスペル、磁気の月の最初の日、銀河太陽年<黄色い磁気の種>の最初の日。

13の月の新しい時間が入り込む。惑星地球のアルクトゥルス統制の保護が布告され、確立される。

銀河連盟は静かにやってくる!

青い宇宙の嵐の年、AD 1 9 9 3 年

律動の月・25日 グレゴリオ暦の降臨節、1月6日 キン203 青い銀河の夜

アルクトゥルスから、目覚めたハーモニック・コンバージェンスの 144000人の太陽の踊り手への最後の呼びかけ

144日間のハーモニック・コンバージェンス、

1993年3月5日から7月26日までの

アルクトゥルス統制、もうひとつのドリームスペルで、

ハルマゲドンを乗り越えましょう

惑星規模のポトラッチ(祝宴)をやりましょう

ドリームスペル・メディスン・ショーをはじめましょう

「匿名地球人」のサークルをつくりましょう

夢見のからだで地球ダイビングをしましょう

あなたの地球の自己を目覚めさせましょう

地球とともに輪になって座り

他のすべての惑星キンとともに惑星キンとなり

ドリームスペルの地球レンジャー、

目覚めたハーモニック・コンバージェンスの14万4千人の

太陽の踊り手たちの一人になりましょう

新しい時間を形づくり、新しい生命となりましょう

アルクトゥルス統制に参加してください

ハーモニック・コンバージェンスを新しい生き方にするのです

144日間のハーモニック・コンバージェンスのメディスン・ダンスを

1993年3月5日から7月26日にかけて踊りましょう

預言を揺り起こすように踊るときです

預言にある「第五の世界」へ入るときです

地球の時間と13の月の道筋へと戻るときです

この指令をすべてのメディアに伝え、広げてください

あなたの地域の中で、

14万4千人のハーモニック・コンバージェンスの太陽の踊り手たちを

目覚めさせる、最初の人になってください

夜明けを捕まえましょう、いますぐそして永遠に

144日間のハーモニック・コンバージェンス

1993年3月5日から7月25日までのアルクトゥルス統制、

もうひとつのドリームスペル

144日間のハーモニック・コンバージェンス

『キンの書』を、日ごと、キンごとに読んでください

144キン、144日、14万4千人の目覚めた太陽の踊り手たち

夢を揺り起こすように踊る、歩く人間ミステリーサークルになりましょう

黙示録を読んでください

第7章、部族の帰還を

第13章、獣の印を

13の月の道筋で踊ることができないようにしていたものの正体が

666であることを理解してください

大地に円を描き、そこに十字の交差点をつくります

その円の中心が入り口で、そこから第五の世界に入っていきます

宇宙の平和、普遍的な平和の到来を宣言するのです

アルクトゥルスの先兵は、平和の勝利宣言をします

144日のハーモニック・コンバージェンス

14万4千人の目覚めた太陽の踊り手たちのための144日間に

地球が支える救命ボートを呼び起こし

強力なアルクトゥルスの時間船

地球2013を受け取り、それに入り込むために

着水パーティに集まってください、惑星規模の催しです

1993年7月26日 キン144 黄色い磁気の種

アルクトゥルス統制:それはハーモニック・コンバージェンスを新しい生き方にします

ミステリーサークルをつくったのは、アルクトゥルス統制です

相互作用するミステリーサークル創造のために

アルクトゥルス統制はいまや人類を徴集しています

アルクトゥルス統制は戻ってきたキャメロットです

死んだ王を、待ち望んでいる女王を、

準備の整っている子供を、目覚めさせる14万4千人の太陽の踊り手です

アルクトゥルス統制 それは、うつわ、声、先兵、勝利です

うつわとは、聖杯

声とは、放射状母体の歌

先兵とは、魅惑の緑の中央の城を通って 聖杯を運ぶ騎士たちです

そこでは貴婦人たちが放射状母体の歌を通して、勝利を高らかに歌いあげます

女性たちの勝利の歌の最初のコーラスは

大規模な地球のためのキャンペーンです

騎士たちと貴婦人たちを惑星キンとして迎え入れましょう

それぞれの銀河スピンに、地球にお返しをするために

その道は自己を溶解し、その瞬間が成長します

あらゆるキン あらゆるスピン あらゆる聖杯 あらゆる歌

144日間のハーモニック・コンバージェンス

魔術は、そのもとの場所へと返されます

アルクトゥルス統制は、14万4千人の目覚めた太陽の踊り手たちを呼び集め 大規模な地球のためのキャンペーンを揺り起こそうと踊ります そこで戻された利益は 地球の再生のために計られます 未来はきたるべき七つの世代を約束します

惑星地球のドラムの音を鳴らしましょう アルクトゥルス統制による地球のためのキャンペーン 情報と知性の王政を確立するのです それは地球文明の最初の王朝です

ドリームスペルはアルクトゥルス統制の玩具です

それは、銀河時間の地球人を養い育て一人前にするためのものなのです

五次元のジャイロスコープで、四次元を波乗りするすることを覚えましょう

人類の歴史のドリームスペルを通り過ぎて

銀河文化のドリームスペルへと向かいましょう

地球の生物量 (バイオマス) の中で

消費者主体の社会維持システムを持つ

人間生活の継続的な繁殖と増殖が

その他のあらゆる種と、地球という全体系それ自体の犠牲のもとに

成り立っていることを知ってください

アルクトゥルス統制は

生物量の中での新しい平等性と

地球という全体系それ自体の再生を保証する

地球主体の人間社会の維持システムとなる

地球の新しい文明の創設を宣言します

14万4千人の目覚めた太陽の踊り手 144日間のハーモニック・コンバージェンス

紀元1993年3月5日から7月26日までの

もうひとつのドリームスペル、アルクトゥルス統制

それは天国における地上の王国を確立します

死に浸された時計仕掛けの人間生活を維持するか

それとも、生態地域的な自律性の中に生き

精神間の種相互交換プログラムを探索し

あなたの肌の奥深くにある自身の五感で生きる13の月の惑星キンになるかどうか、

すべてはあなた次第です

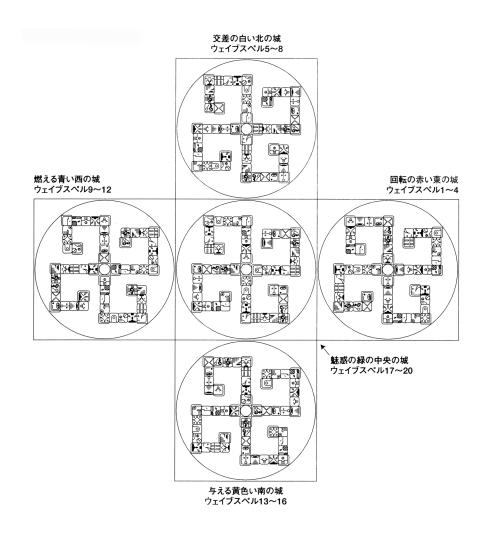
アルクトゥルス統制:誰もがここに含まれ、すべての人がつどいます。

すべての惑星キンのあいだで、自由にこの情報を分かち合ってください

青いスペクトルの猿と白い太陽の風

第2部 アルクトゥルスの監視

ウェイブスペル・リポート1~6/時間船地球2013からの眺めアメリカの没落とキャメロットの回帰



猿の創世記の最後の2つのウェイブスペル

夜のウェイブスペル 15 (- 5 7 8 7 ~ - 4 4 8 7年):「アメリカの没落」 自己存在の月 6 ~ 18 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 10 月 23 日~11 月 4 日)

戦士のウェイブスペル 16 (- 4 4 8 7 ~ 3 1 8 7年):「聖なる戦士の回帰」 自己存在の月 19 日~倍音の月 3 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 5 日~17 日)

月の創世記を構成する4つのウェイブスペル

月のウェイブスペル 17 (- 3 1 8 7 ~ - 1 8 8 7 年):「緑の中央の城への参入」 倍音の月 4 ~ 16 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 18 日~30 日)

風のウェイブスペル 18 (-1887~-587年):「風の回帰」 倍音の月 17日~律動の月1日 (グレゴリオ暦:1995年12月1日~13日)

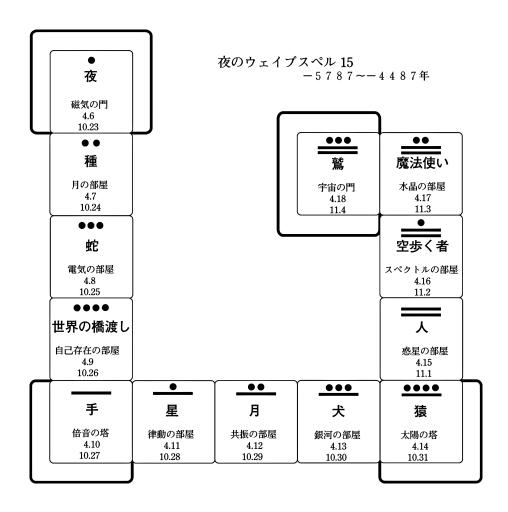
鷲のウェイブスペル 19 (- 587~AD713年):「ヴィジョンの回帰」 律動の月2~14日 (グレゴリオ暦:1995年12月14日~26日)

星のウェイブスペル 20 (AD 7 1 3 ~ 2 0 1 3 年):「美の回帰」 律動の月 15~27 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 12 月 27 日~19 9 6 年 1 月 8 日)

※訳注:この第2部は、グレゴリオ暦の1995年後半に書かれたものですが、5年の「ホルトゥン」と呼ばれる周期で見ると、5年後の2000年後半に5日ずれた形で類似した周期がやってきます。たとえば、冒頭の夜のウェイブスペルは、1995年の自己存在の月6日 (10月23日) からはじまっていますが、(5年後の2000年では5日早まり) 2000年の自己存在の月1日 (10月18日) からも、同じウェイブスペルがはじまっています。したがって、5年後の今日では、本文記載の365日の暦の日付を、5日手前にずらすことで、260日周期との同じ対応関係を楽しみながら、本文を味わうことができます。

ウェイブスペル・リポート1

夜のウェイブスペル 15 (- 5 7 8 7 ~ - 4 4 8 7年):「アメリカの没落」 自己存在の月 6 ~ 18 日(グレゴリオ暦:1 9 9 5 年 10 月 23 日~11 月 4 日)



ウェイブスペルを読むという行為は、四次元の時間の追跡を学ぶこと、すなわち新しい時間をサーフィンすることである。13:20 の時間で、事象は13 の銀河の音と20 の太陽周波数に基づく数学的な比に応じて起こる。この13:20 の比は、非直線的で、放射状母体の中に事象をプロットする。放射状母体では、すべての事象はそれぞれ互いの関係において、共時性のさまざまな度合いにより関連し、意味を持つ。

ひとつのウェイブスペルは、時間の「創造の13の音」を再現する13日周期である。13の音のそ

れぞれは、1日、1週間、ひと月、13週の四半分、13の月の1年、20年、100年などにもなり うる。たとえば、1年全体の事象は、1日の中でも体験されうる。これらのフラクタルな可能性が生 じる理由は、260キンの銀河スピンの力にある。

銀河スピンは、20 のウェイブスペルを作り出す 13 の音のウェイブスペルを通して、20 の太陽周 波数を動かすことによって獲得される。2 6 0 キンの銀河スピンは、3 6 5 日の年間惑星軌道との関係で5:7 の比を持つ。この一定の比が、三次元と四次元の時間が同期し、圧縮され、ひとつの周波数 (13:20) に応じた非直線的なパターンへと放射され、それが三次元の事象の実際の速度を越える。

260キンの銀河スピンは、365日の太陽周期よりも高次の周波数で事象を一覧する。これら2つの周波数(260キンの銀河周期と、365日の太陽周期)に対する私たちの意識的な体験は、ホログラフィー的な時間の理解へと導く。13の月は、13の音のウェイブスペルと同じ宇宙論に従っているために、260キンの銀河スピンの20のウェイブスペルは、13の月の周期に隠された知識を補給し、テレパシー的に利用されるのを待っている。

四次元の時間のレンズから覗くと、歴史全体はひとつのウェイブスペルの中で開示されうる。ひとつの文化、文明、あるいは人種が達成したものは、それより広大かつ古代の何らかのフラクタル倍音以上の何物でもないのかもしれない。

夜のウェイブスペル 15 は、銀河スピン 12 (※訳注: ハーモック・コンバージェンスの時の銀河スピンから数えて 12 番目の銀河スピンを指し、グレゴリオ暦だと 1995年4月24日から 1996年1月8日までの 260日間にあたる)の最後の6つのウェイブスペルの周期をはじめる。「与える南の城」で、青い夜の豊かさは、G7と同一視されるウェイブスペルである。テレクトノンの預言によれば、太陽周波数の夜は、惑星土星の銀河のカルマ的な力に関連づけられている。霊的・テレパシー的な豊かさの力が、偽りの12:60の時間によってねじまげられ、物質主義の肥満した力、バベルの塔となり、G7としての現代世界に出現した。G7の力の支配的な核であるアメリカは、最後のアトランティスの頂点をも表わしている。

このウェイブスペルの最初の2日間、磁気の夜と月の種、グレゴリオ暦の1995年10月23日、24日は、ニューヨークで国連がその50周年記念を締めくくる時期と一致している。国連の「マイカ (Mica) の塔」が、バベルの塔である。この「平和の維持者」の集いを守る前代未聞の警察と軍隊の参列が、それみずからを物語る。月の種の力は、52の銀河の活性化の正門のひとつであり、新しい創造のために、2つに分かれるべくして分かれている。

夜のウェイブスペルの最初の2日間は、預言の第3年の最初の四半分の最後の2日間でもある(※ 訳注:太陽銀河年の365日は、グレゴリオ暦の7月26日から91日ごとの四半分に分けられる。最初の四半分は、 7月26日から10月24日までの91日間にあたる)。テレクトノンで、これらの2日間は、気高い勝利の行 進の9番目の四半分を完了する。テレクトノンでは、この9番目の四半分は、預言の第2年全体を再 現する戦士の立方体の9番目の位置に対応する。そして、「月の月がその堤防からあふれ出すとき、 G7はもはや存在しない」が、預言の第2年のお告げである。これは、「黄色い月の種」の時点で、 65日間の「銀河の黄色い熟成の季節」も完了すること、G7が銀河の活性化の正門を通して、テレ パシー的に洗い流されることを意味する。アメリカの没落が、本格的にはじまった。

夜のウェイブスペルの第3日目、赤い電気の蛇は、グレゴリオ暦10月25日で、65日間の「赤い蛇の銀河の生命力の季節」をはじめた。この65日周期は、律動の月16日(1995年12月28日)、赤い月の月の日に完了する。この日もまた、預言の第2年を再現する。そして、「月の月がその堤防からあふれ出すとき、G7はもはや存在しない」。この時期までに、G7の提携関係の中で起きる再編成が、すでに腐敗したアメリカの道徳性を通して破壊的な正確さで反響し、この最後のアトランティスの没落を早める。

赤い電気の蛇、自己存在の月8日は、気高い勝利の行進の10番目の四半分、すなわちこの預言の第3年、白い電気の魔法使いの年の第2の四半分の最初の日である。この気高い勝利の行進の10番目の四半分は、戦士の迷宮の立方体の位置10に対応する。立方体の位置10は実際には、預言の第3年全体、白い電気の魔法使いの年全体を再現する。これは、次の13週間のそれぞれ、すなわち自己存在の月8日から共振の月14日までの各週が、白い電気の魔法使いの年のそれぞれの13の月を再現することを意味する(※訳注:1年は52週で、その4分の1である13週間は、その4倍の13か月と、1週間=1か月の関係でフラクタル的に13の月を再現することを指す)。白い電気の魔法使いの年のスローガンは、「勝利は鎮める」である。あなたの「13の月の暦」を手にとって、この13週間にそれぞれ、毎月の名前と行為をしるしてみよう。この時期は、生物圏と普遍的な平和の到来のために、惑星奉仕のウェイブスペルを働かせる惑星奉仕者としてのあなたの役割を強化し、それに備える期間。それは、惑星の「キャメロットの回帰」に先立つ正義の道だ。

夜のウェイブスペルの最後の2日間、白い水晶の魔法使いと青い宇宙の鷲は、預言の最初の2年(※ 訳注:1993年7月26日~1995年7月25日までの2年間)の失われた世代のお告げに対応する。言い 換えれば、11月3日、自己存在の月17日、白いスペクトルの魔法使いは、預言の第1年、黄色い磁 気の種の年のお告げであり、そして11月4日、自己存在の月18日の青い宇宙の鷲は、預言の第2 年、赤い月の月の年のお告げである。したがって、夜のG7のウェイブスペルの最終日には、預言の第2年が再び呼び起こされることになる。

「月の月がその堤防からあふれ出すとき、G7はもはや存在しない」。

アメリカの没落を倍音で響かせる四次元の力とは、どのようなものだろうか? それは、失われた 惑星マルデク、アステロイド・ベルトのテレパシー的なあがないである。アメリカの国璽(合衆国印章)の数秘術によれば、アメリカ合衆国は、その限界に達している。13の星、13のストライプ(盾の筋)、13の矢、13の平和のオリーブの葉で52のしるし、そして任期で数えて52回目の大統領就任は1993年のビル・クリントン(第42代大統領)だった。

国璽の反対側には、石でできた 13 層のピラミッドが、その4つの側面にあり、ここにも 52 という数字が登場する。52 プラス 52 は 1 0 4 で、1 0 4 回目の議会、すなわち現在の最後の合衆国議会である。13 層のピラミッドの4 倍の数字、52 は、50 州プラス、コロンビア特別区(※訳注: 米国ワシントンの議会直轄地のこと)とプエルト・リコのことであり、これ以上増えることはない。ピラミッドの頂上にはすべてを見渡す目、すなわち三次元の政治の四次元の知恵へのを超越である:これがアメリカ没落の意味である。それはいつだろうか? それはすでにはじまっている。

赤い電気の蛇、自己存在の月8日は、65日間の銀河の生命力周期と、91日、13週間の白い電気の魔法使いの年の再現の双方のはじまりをしるす。65:91は、5:7と同じ比で、それが365日の太陽軌道に対する260日の四次元スピンの関係をしるす。これは、この周期の中にあるテレパシー的な記録に良い機会であることを強調している。

原注:これらの周期のコードネーム、「赤い電気の蛇」や「白い電気の魔法使い」は、ウェイブスペルの第3の音、電気の奉仕の音が共通していることに注意すること。さらに意味深いことに、蛇と魔法使いは、失われた惑星マルデクに関連づけられる2つの太陽周波数の図像である:蛇が銀河のカルマ的なマルデク、魔法使いが太陽の預言的なマルデクだ。

マルデクの蛇が、起源の創造の物語や人類の悪へと堕落という隠れた力のすべてを持っているとすれば(思い出してほしい:オハイオ州サーペントマウンドがアダムズ郡にあることを!)、マルデクの魔法使いは、マーリンや惑星のキャメロットの回帰に関連づけられる、あがないの魔術の力すべてを持っている。アメリカの没落は、「時間戦争」と預言の力の不可避的な帰結である。アメリカにコード化されているのは、13の音のウェイブスペルの力、すなわち 13 州と、国璽の両側全体にある数

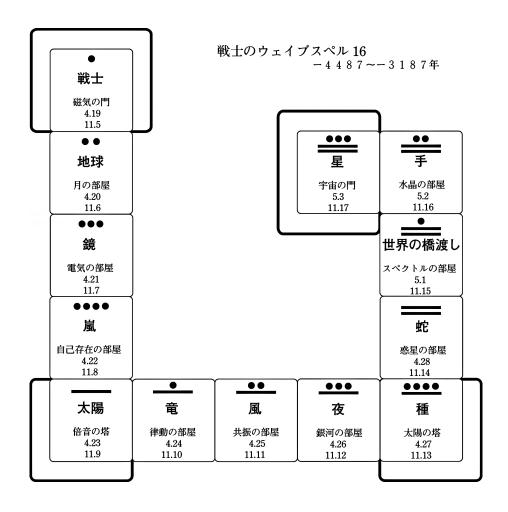
字の象徴である。13 州、任期にして52 (13×4) 回目の大統領の就任、104 (13×8) 回目の議会、第1回目の議会から208 (13×16) 年目、すなわち1788年から最後の議会の終わり1996年までである。208年は、260キンの時間を示すドリームスペルの旅程盤の最初の4つの城を構成している。208年、マーリンの塔、魅惑の緑の中央の城、すなわちスピンの最後の52キンを伴う5番目で最後の城への208段である。

アメリカの没落に続くのは、キャメロット、魅惑の緑の中央の城の回帰である。キャメロットは、聖なる戦士なくしては回帰しうるものではない。夜のG7、アメリカの崩壊のウェイブスペルのあとに続くのは、16番目のウェイブスペル、黄色い戦士の知性のウェイブスペルである。魅惑の緑の中央の城への入り口にその位置を保っている戦士のウェイブスペル、キン196~208、自己存在の月19日~倍音の月3日(11月4日~17日)は、アメリカの没落からキャメロットの回帰を導く、聖なる戦士の誕生となる13の音を再現する。

ウェイブスペル・リポート2

夜のウェイブスペル 15 (- 5 7 8 7 ~ - 4 4 8 7年):「アメリカの没落」 自己存在の月 6 ~ 18 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 10 月 23 日~11 月 4 日)

戦士のウェイブスペル 16 (- 4 4 8 7 ~ - 318 7年):「聖なる戦士の回帰」 自己存在の月 19 日~倍音の月 3 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 5 日~17 日)



アメリカの没落に涙するよりも、キャメロットの回帰を喜ぼう。G7の崩壊とそれに引き続くアメリカの没落によって今起きている筋書きは、古代のカルマ的な出来事の舞台設定が、いまや完全に演じきられている結果生じたもの、すなわち地球上の審判の日である。

竜から星までの旅程盤のひと連なりの中にある 20 のウェイブスペルは、惑星の地球生物圏の四次元体、時間船地球 2 0 1 3 の系図を構成している。おのおののウェイブスペルが 1 3 0 0 年周期というこの系図は、3 つの創世記について述べている。すなわち、竜の創世記、-23987年から-10987年(10 ウェイブスペルで 13000年)、猿の創世記、-10987年から-3187年(6 ウェイブスペルで 13000年)、月の創世記、-3187年から 130004 AD 130004 AD 130005 AD 130006 である。

フラクタル・テレパシーによって、どんな 13 日のウェイブスペルのひと連なりでも、それに沿って生きるなら、それは人類の生物圏の進化である 1 3 0 0 年周期のウェイブスペルの隠された遺産やカルマに同時に関わることを意味する。

時間船の系図において、たとえば、夜のウェイブスペルは、- 5787年と- 4487年の間に起きていて、また戦士のウェイブスペルは- 4487年から- 3187年まで、つまり猿の創世記の最後から月の創世記のはじまりまでの間に起きている。そのとき、時間船に何が起きたのだろうか?そして猿の創世記とは何なのだろうか?

猿の創世記は、忘れられ、禁じられた創世記である。竜の創世記は、時間船地球2013の夢見の身体を織りなす氷河期だった。猿の創世記はキャメロットとして思い出すのがベストだろう。キャメロットでは、すべてがうまくいったわけではなかった。魔術が最高のものとして行き渡っていた猿の創世記の系図は、6つのウェイブスペルから構成されている。5番目が夜のウェイブスペルで、6番目が戦士のウェイブスペルである。自然の秩序から離れ、人間たちの運命を奴隷状態にしておく方法として、金銭と引き換えに時間を搾取するという土星の陰謀が最初にもくろまれたのは、この夜のウェイブスペルの間だった。

時間船の夢見の身体にささやかれたこの悪魔の提案は、夜のウェイブスペルの間に混乱を生じ、猿の創世記という長く続いた黄金時代の終わりが近づいた。緑の中央の城の勝利の栄光や 13 の月の完全な道がもたらされるというより、戦士のウェイブスペルが表向き成就しない使命とともに悲劇的に終わった。

戦士のウェイブスペルと猿の創世記の結末は、アーサー王伝説のラストシーンとしてよく記憶されている。アーサー王の死体は、湖の貴婦人の手だけが受け止めることができたエクスカリバーという剣が投げ込まれた、まさにその湖に埋葬された。エクスカリバーは月の創世記のために約束されていた知識であり、光の剣である。湖の貴婦人は、パレンケの後見人であるボロン・イクの投影である。

湖の貴婦人/ボロン・イクの元にあった光の剣は、テレクトノンとして示される預言のために取って おかれ、アメリカの没落からキャメロットの回帰に道を開けることになった。

夜のウェイブスペルの最後の2日間である 12・魔法使いと 13・鷲(11 月3日~4日)が、預言の年の最初の2年である1993年から1995年をあがなうことを意図した最初の2つの「失われた世代」を示すのは、これが理由である。これら2つのキンは、G7のカルマ的な根、すなわちキャメロットの裏切りをテレパシー的に根こそぎにするのに重大かつ欠かせないカルマ的な荷を担っている。クリントン大統領は事実上G7のリーダーだが、彼はジョン・F・ケネディ大統領、ロバート・ケネディ、マリリン・モンローの遺産を固く守っている。3人はその時代、「キャメロットの回帰」に結びつけられていた。クリントンが大統領でいる間のアメリカの没落は、1960年代の裏切りに対するカルマ的な償いである。

1990年代初期のG7の勝利は、もともとは猿の創世記の終わりに起きた次元間の罪の最後の行為にあたる。この裏切りという根源的な罪は、バビロニア時代の時間の枠組みである最初の12か月の暦にコード化された。すなわちG7の幻想の力のすべてが投資された今日のグレゴリオ暦の元となった暦の中にコード化された。

夜のウェイブスペルの最後の2日間、白い水晶の魔法使いと青い宇宙の鷲(自己存在の月 17~18日、11月3日~4日)をテレパシー的に奪取し、猿の創世記の尻尾を捕らえることで、私たちはG7のカルマ的な結びつきその根元から断ち切る。そうすることで、私たちは旅程盤の最後の5つのウェイブスペルの魔術の呪文を解き放ち、キャメロットの回帰を確固たるものにする。リアルタイムでこれらのウェイブスペルに従うことによって、私たちは失われた知識を自分の内に再びなぞりはじめることができる。

夜のウェイブスペルが、銀河のカルマ的な土星の豊かさという力を表わす一方、戦士のウェイブスペルは太陽の預言的な土星の知性という力を表わしている。テレクトノンにおいて、知性の力はバベルの塔をあがなうことを意図した預言の力の一つである。

裏切りの再演に関して、夜のウェイブスペルの最後の日、青い宇宙の鷲がイスラエルのラビン首相暗殺となったことに注意してもらいたい。戦士のウェイブスペルの最初の日、黄色い磁気の戦士、自己存在の月19日の放送は、この悲劇的な出来事のニュースで埋まった。翌日、赤い月の地球、自己存在の月20日、ラビン氏の葬儀の場にクリントンとブッシュだけでなく、テディ・ケネディも出席し、兄弟たちの墓、すなわち崩壊したキャメロットの大地から持ってきた土を、ラビン首相の墓の上

にふりまいた。キャメロットの回帰の用意は、戦士のウェイブスペル、自己存在の月 19 日から倍音の月 3 日まで、1995年 11 月 5 日から 17 日までに見い出される聖なる戦士の道に、その秘訣がある。

戦士のウェイブスペルの最初の5日ないしは5キンは、テレクトノンの預言の「7つの失われた世 代」の最後の5つを再現している。

その最初の日は、黄色い磁気の戦士で、預言の第3年(1995~96年)の失われた世代であり、 それが聖なる戦士の回帰を表わす。聖なる戦士は、地球の生物圏という壊れやすい統一体、すなわち 惑星のキャメロットの領域を守る、高い理想に調律された完全に覚醒した人間の原型である。

その次の赤い月の地球、ラビン首相の埋葬の日は、預言の第4年(1996年~97年)の失われた世代を示している。今日、自己存在の月21日、白い電気の鏡は、預言の第5の年(1997年~98年)と、今年(※訳注:「白い電気の魔法使い」の年)の「時間をはずした日」にあたる1996年7月25日の両方を表わしている。

このことは、今日は預言の第3年の最終日から、1銀河スピン(260日)手前にいることを意味 している。明日は、自己存在の月22日であり、今年の預言の年の13の月をフラクタル的に示して いる13週間のうち第3週のはじまりであり、青い自己存在の嵐の年、すなわち預言の第4年全体を 示すキンになり、同時に預言の第6年(1998年~99年)の失われた世代を示している。

最後に黄色い倍音の太陽、すなわち自己存在の月の23日は、預言の第7年、1999年~2000年、千年紀の失われた世代である。倍音の太陽の位置にたどりつくと、あなたは、戦士のウェイブスペルの指揮の塔(グレゴリオ暦の11月9日)の中にいることになる。聖なる戦士の道によるキャメロットの回帰を確かにする公式の中で重要なのは、テレパシー的に2つの門と2つの塔を選び取り、ウェイブスペルをつかまえることである。

ウェイブスペルの門は、常に1番目と13番目、磁気の門と宇宙の門の位置にある。ウェイブスペルの2つの塔は、常に5番目と9番目にあり、それは倍音の塔と太陽の塔の位置にある。

倍音の太陽は、預言の失われた7つの世代の力の指揮をとることにより、戦士のウェイブスペルの 指揮をとる機会となる。倍音の太陽の「導く力」は、このウェイブスペルの13番目に位置する星で ある。黄色い倍音の太陽と黄色い宇宙の星の間には、9番目にある黄色い太陽の種、あるいは太陽の 塔の位置、自己存在の月 27 日(11 月 13 日)がある。倍音の塔の位置を占めている太陽によって導かれる黄色い太陽の種は、ニコライ・レーリヒの銀河の署名だ。「平和の旗、文化による平和」の運動は、1 9 3 0 年代に裏切られ、第 2 次大戦の間、まったく無視された。この日は「平和の預言者が目覚めつつある」という瞑想をする日だ。

太陽の塔から、最終日の黄色い宇宙の星、倍音の月3日(11月17日)に向けて、太陽の種を脈動させよう。太陽の種は、今まさに始まろうとするキャメロットである。太陽の種と宇宙の星の間には倍音の月の初日(11月15日)が来る。それは、白いスペクトルの橋渡し、銀河の火星の死を扱う力であり、キャメロット以前の記憶の鉱脈の貯蔵庫である。ジョン・F・ケネディは白い惑星の世界の橋渡しであり、弟のボビーは白い太陽の世界の橋渡しだった。

太陽を命じ、種を脈動させることによって、聖なる戦士の道は黄色い宇宙の星で終わる。聖なる戦士は、地球のキンすべてが、時間の「魅惑の緑の中央の城」であるキャメロットの中にある宇宙の星になるための道を示す。人によって導かれる黄色い宇宙の星は、すべての進化があこがれる宇宙の美を指揮することも含んでいる。

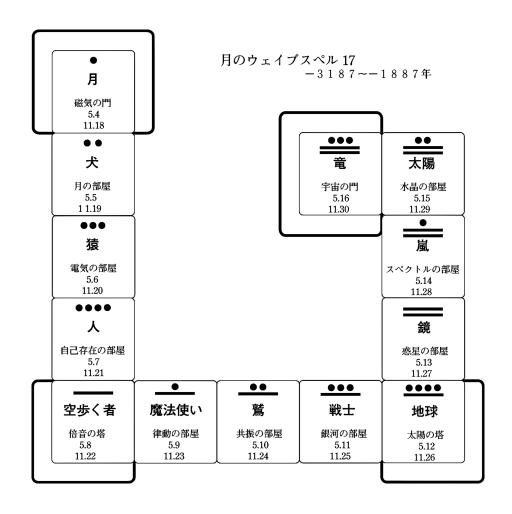
黄色い宇宙の星はもちろん、キン208であり、マーリンの城への最後のステップであり、アメリカが運命の1788年から1996年までを完了させなければならない年の数である。キン209は、緑の中央の城への最初のステップであり、月のウェイブスペル、キャメロットの回帰である「13の月の道」という失われた約束の13の音の最初である。

思い出してほしい。アメリカの没落を強めることによって、あなたはキャメロットの回帰を早めているのだ。

ウェイブスペル・リポート3

戦士のウェイブスペル 16 (- 4 4 8 7 ~ 3 1 8 7 年):「聖なる戦士の回帰」 自己存在の月 19 日~倍音の月 3 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 5 日~17 日)

月のウェイブスペル 17 (- 3 1 8 7 ~ - 1 8 8 7年):「緑の中央の城への参入」 倍音の月 4 ~ 16 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 18 日~ 30 日)



ウェイブスペルという言葉は、「ウェイブ」(波動)が時間における持続期間の銀河形態で、「スペル」 (魔法)は特定の時間の「魔法」を支配する魅惑ないしは信念のことである。したがってウェイブスペルとは、波動をとらえる支配的な魔法ないしは信念体系を含む時間の銀河形態の定数である。明ら かにウェイブスペルは四次元の数学形態であり、四次元の形態では、数学的な顕現となるどんな形よりも、心的な比が問題となる。だからこそ、「ウェイブスペルのとらえ方」を知ることが重要 だ。ウェイブスペルをとらえることは、「時間術」あるいは時間魔術を実践することである。

ホモ・サピエンスの3つの創世記の20ウェイブスペルは、260キンの銀河スピンにコード化されている。これが意味するところは、260日の人類のカルマの輪が、365日の軌道へとパターン化された日常の三次元の出来事との関連において5:7の比で循環することだ。同時代の三次元の事象のパターンに重なる3つの創世記の意味と周期を知ることが、ウェイブスペルを「つかむ」ための第一のステップである。

これまで見てきたように、猿の魔術の創世記の最後の2つのウェイブスペルは、その使命を果たせずに未完に終わった。しかし、13 日のスピンでウェイブスペルをつかまえることで、私たちは現在の集合心の時間で、過去の集合心の時間とつながっている霊的でカルマ的な事象の影響に同調し、それを反転ないしは変容する。

夜のウェイブスペルのときにキャメロットで起きた波乱は、アメリカの没落のカルマ的な前兆だった。戦士のウェイブスペルの行為は、アメリカの没落により、キャメロットのあがないと回帰へと導く第一のステップだった。キャメロット——アメリカというこの図式の中で、私たちは月の創世記に再び入り込み、時間術によって「歴史のドリームスペル」を反転し、それを終わらせることができる。

ウェイブスペルをつかみとる鍵は、その2つの門と2つの塔をつかむことである。キン209、赤い磁気の月、倍音の月4日(グレゴリオ暦:1995年11月18日)は、月のウェイブスペルに入る磁気の門であるだけでなく、歴史のドリームスペルによって覆われていた「魅惑の緑の中央の城」の52キンの月の創世記にも入り込む。歴史のドリームスペルが最高潮に達しているのはアメリカで

ある。もともとの13州の植民地、52期目の大統領就任、104の議会、208年は、絶対的な歴史の限界を表わす。208番目のキン、すなわち209年目は、歴史を越える。それは、マーリンの魅惑された領域に入る控えの間である。月の創世記の磁気の門をつかまえることで、戦士のための道が用意される。13の月の道である。

その道を歩むことにより、戦士は聖なる戦士となる。道のない戦士は、幻想にもがく。13 の月、最も広い道は、時間の道である。戦士のウェイブスペルは、時間の中でひとつの星になるための試練だ。黄色い宇宙の星、キン208が、戦士の準備を完了させる。ひとたび任務のために鍛えられると、戦士はその道に進む準備が整う。キン209に、月のウェイブスペルと月の創世記の道が、13 の月の道として開かれる。

ドリームスペルで、この時点に私たちは-3187年に置かれる。魔術とテレパシーの平等な円卓が、ヒエラルキー的なバベルの塔にとって代わり、その基礎として再び据え付けられる。フラクタルの類比により、-3187年は、倍音の月4日(グレゴリオ暦:1995年11月18日)である。この磁気の月の門をつかみとることにより、私たちはその日を掌握し、ウェイブスペルをつかみ、月のウェイブスペルそのものの13の音によって表される13の月を経由して、テレパシー的に歴史のドリームスペルを統一し、キャメロットの回帰を準備する。13の月に従うと、戦士はキャメロット―霊、ヴィジョン、美(※訳注:月の創世記を構成する最後の3つのウェイブスペル、風、鷲、星のキーワード)―の3つの価値を構築できるようになる。

キャメロットの回帰へと向かう 13 の月の道の、磁気の月の門の獲得は、戦士のウェイブスペルの太陽の塔、キン204、黄色い太陽の種(グレゴリオ暦:1995年11月13日)に準備された。それは、サウジ・アラビアの中深くの米国軍事基地に前代未聞のテロリストの攻撃があっただけではなく、同日夜にアメリカ政府機関の作業が中断され、政治家が小石を投げて、「灰じんに帰す」(栄光の死)という弔いの歌を歌ったという光景だけが残されたことによる。キン208、倍音の月3日(1995年11月17日・金曜日)、「かつての週」の終わりに政府機関の閉鎖は続き、不信や疑惑、異議を投げつけたが、株式市場は常時、高値をつけて、5000に手が届きそうな終わり値をつけた。

「13 の月の暦」で、年間の 13 の月のウェイブスペルの指揮の塔を占める倍音の月(11 月 15 日 ~12 月 12 日)に入り込んだばかりであることにも注目したい。この月全体が、真実の指令を強化し、13 番目の宇宙の月(1 9 9 6 年 6 月 27 日~7 月 24 日)の終わりまでに、ダイナミックで勝利に満ちた結末を引き出すために、惑星奉仕のウェイブスペルで私たちがうまく作業できるようにする資源・方策を集める時となる。倍音の月の指揮をとり、あなたが預言の第 3 年、白い電気の魔法使いの

惑星奉仕のウェイブスペル全体の指揮をとるのだ。

白い電気の魔法使いの究極の奉仕は何だろうか? 時間術の教えは、次のようなものである。すなわち、ウェイブスペル・フラクタルの知識の解読と、テレパシー的な応用の魔術だと。ウェイブスペル・フラクタルは、地球が太陽のまわりをめぐる年間の三次元軌道のすべてを超越し、それに乗る四次元の情報単位である。ウェイブスペル・フラクタルは、気づかず、取り戻されず、また解放されずに波乗りされる、さまざまな三次元周期のすべてに対する「心にしばしば浮かぶ事柄」として不可避的に体験される。時間術の到来により、私たちはウェイブスペル・フラクタルを解読し、歴史の呪縛を打ち破り、キャメロットの回帰を早めるために、それを応用できる。そうすれば歴史のドリームスペルに対しての隷属により、私たちに与えられなかった「魅惑の緑の中央の城」に入る門が開くだろう。

キャメロットは、ウェイブスペル・フラクタルに最もよく現われる。円卓は、平等主義の共同体と 叙事詩的な冒険を呼び戻すために、しばしば心に浮かぶ事柄となる。月のウェイブスペルの磁気の門 をつかみとることで、魅惑の緑の中央の城は、獣の口から取り戻される。円卓を回復し、そして次の 52 日間のあいだ、歴史の 52 世紀、アメリカの 52 期の大統領就任期間をテレパシー的に繰り返し、 アメリカの没落を最終的なキャメロットの裏切りのあがないへと変容することだ! 月の創世記の 塔と門をつかみ、13 の月の道に回帰することによって、キャメロットを取り戻す時である。

アメリカの没落が確実なのと同じくらいに、キャメロットの回帰もその必然性がある。黄色い宇宙の星、キン208、すなわちフラクタル的なアメリカの没落の最後の年の最終段階に、グランドキャニオン国立公園は、1919年にそれが開園してからはじめて閉じられた。魅惑の緑の中央の城への夜明けが近づくにつれ、「憂欝で意地悪な人」が、優位に立とうと現われる。だが、見るがいい! 水平線上に、月の犬、キン210、倍音の月5日に、三部作のビートルズ・アンソロジーがはじまる。「イエロー・サブマリン」が戻ってきたのだ! 月の創世記のあいだに13の月の道に入り込むことによって、「イエロー・サブマリン」が実際には時間船地球2013であるという啓示に参加できる。時間船地球2013は、精神圏へと変容する惑星の生物圏であり、惑星地球のテレパシー的な統一場だ!

フラクタル・アナロジー(類比)によって語られる物語に耳を傾けてみよう。フラクタル・アナロジーでは、太陽銀河年の1961年7月26日~1962年7月25日の1年もまた「赤い磁気の月」だった(※訳注:この1年は実際には「8・種」すなわち「黄色い銀河の種」の年だが、次に述べてあるように最後の52年のはじまりを告げた年という意味でキン209と対応づけられている)。すなわち、緑の中央の城への入り口であり、1753年~2013年の260年周期の最後の52年への入り口である。フラクタル・

アナロジーによると、キャメロットに再び入り、歴史をあがなう時だったのだ。ジョン・F・ケネディは、大統領に選ばれており、キャメロットはすぐ目の前にあった。しかし、その代わりに起こったのは、最終的なキャメロットの裏切りだった。

キャメロットが魔法をかける前に、歴史の誕生がCIAの陰謀とその完全な失敗によって再演された。だが、タペストリーは敷かれた。銀河の署名によると、心に浮かぶ四人組が、裏切られたキャメロットの物語を教えてくれる。ジョン・F・ケネディ、白い惑星の世界の橋渡しが、アーサー王に相当する。ロバート・ケネディが、白い太陽の世界の橋渡しで、ランスロット卿に相当。マリリン・モンローが、白い太陽の魔法使いで、グィネヴィア。そしてビートルズのジョン・レノンが白い惑星の魔法使いで、聖杯の探求者、パーシヴァルである。2人の世界の橋渡しは火星から、2人の魔法使いは預言的に回復されるマルデクから。キャメロットの心に浮かぶ約束は、これら60年代の4人の有名人の悲劇的な運命で思い出される。

60 年代のキャメロットの裏切りは、月のウェイブスペルのはじまりに向けて生じる、3日間にわたるビートルズのリバイバルによってあがなわれる。白い月の犬、ビートルズ・アンソロジーのスタートの日はまた、ヨハネ・パウロ2世、すなわち「憂欝で意地悪な人」たちの、G7が同意した霊的な助言者の銀河の署名でもある。翌日、青い電気の猿は、ポール・マッカートニーの銀河の署名で、月の犬と同様、銀河の活性化の正門である。ビートルズ・リバイバルの最終日は、黄色い自己存在の人、形の自由意志を定義する日である。だから、「マジカル・ミステリー・ツアー」を13の月の道の旅へと変容して、キャメロットの回帰のお祝いをしよう。

ビートルズに満たされた3日間の翌日は、赤い倍音の空歩く者、倍音の月8日(1995年11月22日)、月のウェイブスペルの指揮の塔である。これが手に入れるべき塔なのは、その日が新月で惑星の合で満たされており、またJFKの暗殺から32年目にあたるからである。JFKの暗殺の記念日の上にあるビートルズのリバイバルは、13の月の聖なる戦士の道とキャメロットの回帰のために、そのウェイブスペルをきれいに掃除してくれる。

ドリームスペルで、空歩く者は、太陽の預言的な火星の力で、世界の橋渡し、すなわちジョンとボビー・ケネディの双方によって維持されている破壊された火星の力をあがなう。預言を開示する空間の力である空歩く者は、13の力をも維持しており、20の太陽周波数のひと連なりの中で13番目の位置を占めている。空歩く者は、ケツァルコアトルの力であり、預言者や使者の血統である。倍音の空歩く者は、13の月の正義の理想のために、すべての預言者や殉教者たちのヴィジョンを唱える瞬間である。

ビル・クリントンもまた、火星に関連した赤い自己存在の空歩く者だ。ジャッキー・Oとオノ・ヨーコはどうだろうか? 彼女たちもまた、火星に関連しており、その銀河の署名は2人とも白い自己存在の世界の橋渡しである。これら4人の白い自己存在の世界の橋渡しの両者ともに、殉教者の未亡人という共通の運命を共有した。ひとりは、白い惑星の世界の橋渡し、ジョン・ケネディと結婚し、もうひとりは、白い惑星の魔法使い、ジョン・レノンと結婚した。さらに、火星に関連したビル・クリントンは、彼の銀河の署名の日、すなわち赤い自己存在の空歩く者の日(1993年8月24日)に、火星のジャッキー・O、すなわち白い自己存在の世界の橋渡しとともにいた。そして同じ日に、NASAのマーズ・オブザーバー(火星探査船)は、「技術的な支障」を生じた。心をよぎる火星の追憶である。

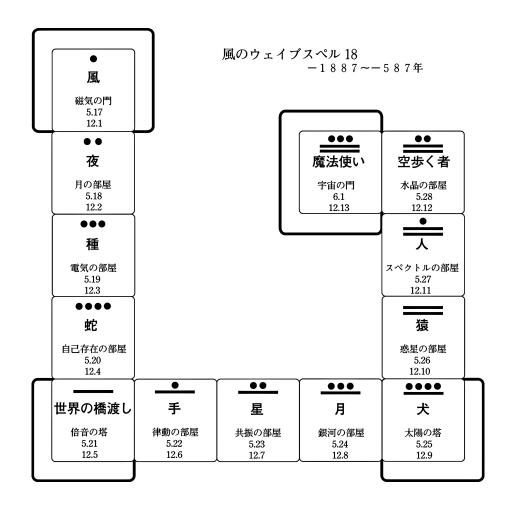
倍音の塔、赤い倍音の空歩く者の後に続き、月のウェイブスペルの太陽の塔である、赤い太陽の地球、倍音の月 12 日(グレゴリオ暦:1995年11月26日)を手にしよう。赤い太陽の地球は、太陽の預言的な天王星、革命(回転)を支配する惑星を表わす。これは、赤い宇宙の竜、倍音の月16日(1995年11月30日)に向かう時間の新しい太陽の回転を脈動させる日で、この月のウェイブスペルの宇宙の門は、13の月の道の誕生、キャメロットの回帰を、あなたの戦士の自己の中で祝う日である。

この頃までに、テレクトノン、キャメロットの回帰の先駆けとなる預言のゲームが、その最終の生産段階に入り、町で唯一のゲームとしての13の月の道を確立する。このゲームをプレイすることで、キャメロットの回帰の秘訣を生き、あなたは宇宙の星となる。「そしてみんなが輝く、月や星や太陽のように」(J・レノン)

ウェイブスペル・リポート4

月のウェイブスペル 17 (- 3 1 8 7 ~ - 1 8 8 7 年):「緑の中央の城への参入」 倍音の月 4 ~ 16 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5 年 11 月 18 日~30 日)

風のウェイブスペル 18 (- 1887~- 587年):「風の回帰」 倍音の月 17日~律動の月 1日 (グレゴリオ暦:1995年12月1日~13日)



時間幾何学のフラクタルに乗ると、ウェイブスペルは、それによってすべての記憶が取り戻され、さらに再び具体化することもある想像上の網となる。13 日周期としてのウェイブスペルは、それを通して時間のより大きな尺度のフラクタルが組み立てなおされ、再構築されるだろう四次元の建築物をつくるのに十分なものである。

26000年のホモサピエンスのドリームスペルを構成する、20のウェイブスペルのひと連なりは、260日ごとに生じている。20のウェイブスペルのひと連なりは、あがないの台本でコード化されている。それぞれのウェイブスペルは、そのひと連なりの中で、神話あるいは歴史と呼ぶことも可能な「物語」と統合的に結びついている。この台本は、実際には、天国あるいは地獄の想像の可能性の、惑星間的な一覧となっている。

ドリームスペルやテレクトノンの四次元の時間の宇宙論は、惑星地球が、究極的には私たちの太陽系をはるかに越えたところに起源を持つ、広大なドラマの最終的な貯蔵庫であることを示す。主人公たちはいまや惑星地球上に三次元的な肉体を持つものの、起源の記憶のすべては、事実上忘れられ、多彩な恐怖プログラムへと歪んだものになってしまった。

すべての恐怖プログラムは、12:60 の発生物であり、ひとたび生じると、それは後天的な性格としてすばやく引き受けられる。ひとたび恐怖プログラムが後天的な第二の天性として受け入れられると、一種の感覚的なシャットダウン(閉鎖)が有機体の中で生じる。恐怖プログラムが集合的な信念体系になると、かつて未解決だった歴史を無意識に演じることが優勢になる。

起源のバビロニアの時間における過ちが生じた5000年以上前から、「審判の日」の台本が惑星地球上で演じられる舞台が設定されていた。「審判の日」は、人類が自然の時間周期から逸脱し、それが燃焼の爆発点を迎えたときの、生物圏の編み目の中の特定の時点をさす。自然秩序の織物の中の裂け目が、知覚における壮観な人類の失敗として完全に明らかになるのが、この時点である。言うまでもなく、人類は審判の日に至り、それがゆえにアルクトゥルスの監視が強化されたのである。

審判の日の台本の主要な運び手、およびバベルの塔の遺産全体の相続者は、アメリカである。膨大な税金のバビロニアの状況全体、アメリカの歴史上の経験の核にある帝国主義的な拡大、軍国主義だけでなく、それよりも深くあるのは、古代の星のドラマの再演にひそむファンタスティックな激動であり、それが「アメリカの没落」で頂点に達している。

260キンのスピンの最後の4つのウェイブスペルが、最後の歴史の5200年、歴史のドリームスペルを再現するのを見てきたように、そこではキャメロットという緑の中央の城が、時間における過ちに基づく二次的なフィクションに何層にもわたって覆われている。月のウェイブスペル(ドリームスペルの年代記では、-3187~-1887)は、13番目の月を摘みとることによるバビロニアの時間の捕獲と、それを12か月の暦に置き換えたことを表わす。風のウェイブスペル(-188

7~- 587)は、歴史の標準としてのバビロニア的な帝国の型が勝利したことを表わす。この軍国 主義の「必要性」を確立したことが、実際に霊の力を大きく覆い隠してしまったのである。

平行的なキャメロットの台本では、ひとたび 13 の月が、月のウェイブスペルに確立され、人類秩序が銀河時間の波の中で同期がとられれば、そのときはキャメロットの3つの建設的な力のための基礎が敷かれる。すなわち、霊、ヴィジョン、美である。だが、バビロニアの時間詐欺で、いちど偽りの暦が確立されると、霊は物質主義の力へと堕落した。この風のウェイブスペルが開かれるにつれて、それは偽りの月の 12 番目で最後の月の最初の 13 日間(グレゴリオ暦の 12 月 1 日~13 日を指す)と平行して進行し、アメリカの最後の王がヨーロッパでG7の同盟国を訪ね、米国軍を視察し、オハイオ州デイトンの空軍基地で秘密裡に練られた「平和条約」を施行するためにボスニアに2万人の兵を送る準備を整えた。

ここで真に進行しているのは、「火星の死の望み」を最終的に演じることである。アメリカは実際には破産し、崩壊している。だが、株式市場は5100ポイントを越えるという信じられないほどの高値をつけている。それ自体には知られていない、集合的なアメリカ人の心は、「末期の勝利者の精神病」と呼ばれる致命的な病で苦しんでいる。この精神病は、G7の設計者、ジョージ・ブッシュが状況をバビロンに引き戻したとき、すなわち砂漠の嵐作戦(オペレーション・デザート・ストーム)の時期に確立された。

イブニング・ニュースのキャスターによって引き起こされる「末期の勝利者の精神病」は、現状維持が永遠不変に続き、疑問の余地のないものであるという避けがたい信念だ。冷戦と砂漠の嵐作戦に勝利したアメリカは、歴史のすべてにおいてもっとも大きな軍事力であるという疑わしい頂点を獲得した。この「末期の勝利者の精神病」の礎石は、絶対的な心理として自己満足的にまつりあげられている二次的なフィクションの主催者を確かなものとする。仕事(G7の死の恐れ)が、究極的な社会のゴールとなる。戦争が和平となる。医学は、人の心臓を人工心臓ですげ替えることが進歩だとみなされる産業である。バーチャル・リアリティ(仮想現実)は、真の人生よりも刺激的なものとだと考えられている。テレビのゲーム・ショーは、エゴの妄想のがらくたを利用し、激賞する。人類は、消費者の身分へと格下げされ、最も金銭を多く持つ者たちが最も敬われ、偶像化される。たとえば、ビル・ゲイツなどである。だが、テクノロジーに支持される信念の騒動の下には、火星の死の望み、差し迫った審判の日の到来が激しく鼓動している。

JFKの暗殺から32年が経過したときに、マグニチュード7・4の地震が紅海を襲った。モーゼがファラオ(古代エジプトの王)の専制政治からイスラエル人を救出する際に通ったところである。グレート・ピラミッドの王の間に亀裂が入ったという報告がメディアを駆け巡った。これは、月のウ

ェイブスペルの倍音の塔、赤い倍音の空歩く者の日だった。太陽の預言的な火星の周波数である、倍音の空歩く者は、預言の力を命じ、宇宙記憶の竜によって導かれる。それから2日後の青い共振の鷲に、モスクワでの核テロリズムの報告が入った。12月15日までなんとか自分の政府の崩壊をつくろっていた火星の空歩く者であるクリントンは、彼自身の死の望み―ボスニアでの和平―の支持をあの手この手で獲得しようとした。

クリントンの軍事的なみせかけの再演で、歴史上の風のウェイブスペルにはじめて影を落とすことになった。そしてまさに同じ場所で、第一次世界大戦が20世紀をはじめたのだった。いまやテレパシー的にこのウェイブスペルの門と塔をつかみとることは重要である。霊の磁気の門は、天王星、すなわち電気と革命の惑星の、銀河のカルマ的な力を表わす。火星の死の望みの観点から鍵となる点は、倍音の塔、白い倍音の世界の橋渡し(倍音の月21日、12月5日)を手に入れることである。

ここで注意したい点は、歴史のウェイブスペルの最初の2つの倍音の塔が、火星の太陽周波数によって維持されていることである。つまり、月のウェイブスペルでは空歩く者、すなわち太陽の火星が、そして風のウェイブスペルでは、世界の橋渡し、すなわち銀河の火星である。倍音の空歩く者、JFKの暗殺の記念日から、倍音の世界の橋渡しのあいだ、ボスニアにアメリカ軍が致命的な形で参加したことにより、火星の死の望み、アメリカの破滅と没落の影を落とすことになった。

これら2つの指揮の塔をテレパシー的に手に入れることで、私たちは月と風のウェイブスペルをキャメロット、すなわち魅惑の緑の中央の城のために活性化する。ウェイブスペルを活性化するとは、知性的な時間の力を活性化することであり、それは預言の力でもある。倍音の月24日(12月8日)は、ジョン・レノンの暗殺の15年目にあたる。ウェイブスペル上では、赤い銀河の月、「ドアーズ」のジム・モリソンの銀河の署名だ。すべての幻視者、使者、預言者たちを霊的に統一し、高揚させる四次元の時間の共時的な混合に敬意を表わす瞬間を持つようにしよう。

月のウェイブスペルのあいだの道としての 13 の月を確立し、霊のウェイブスペルのあいだのこの道を歩くことで、私たちはマーリンの回帰を心待ちにする。世界の橋渡しのマーリンの倍音の塔から、次に白い太陽の犬が守っている太陽の塔を準備しよう。世界の橋渡しに導かれた白い太陽の犬は、太陽の塔、倍音の月 25 日 (グレゴリオ暦 12 月 9 日) から霊の愛を脈動させる。死によって変異した霊の浄化エネルギーは、愛に再編成され、霊の再構築、宇宙の魔法使い、マーリンの回帰が最高潮に達するために欠かせない。

倍音の月の最終日(グレゴリオ暦:12月 12日=12:12)は、赤い水晶(音 12)の空歩く者、火

星の預言の力である。水晶の音の日は、円卓を催す日だ。この日、数字の「12」が際だち、それが霊のウェイブスペルの円卓を召集する預言を助ける。聖なる戦士の力を求めること:12×12=144、そして立方体の法則の神秘的な力の回帰を求めること:12×12×12=1728。マーリンの回帰を準備するにあたって預言に参加しよう。

預言の円卓のあとには、霊のウェイブスペルの最高潮、白い宇宙の魔法使い、律動の月1日(グレゴリオ暦:12月13日)がやってくる。魔法使いは、太陽の預言的なマルデク、すなわち惑星地球のキャメロットとしての起源の破壊された庭園惑星の回復を表わす。マルデク上での起源の創造で、うまくいかなかったあらゆることは、マーリンによってあがなわれることになっている。だが、マーリンは、喚起され、召喚されなければならない。伝説では、マーリンは、嫉妬深い女司祭ニヌエによって樹に封印されている。これは、知恵の聖なる信頼が女性によって裏切られたことを表わす。これが、それにより12:60の男の神官たちの勃興が可能になった裏切りであり、女性と13:20の価値のすべてを抑圧した歴史の強奪である。

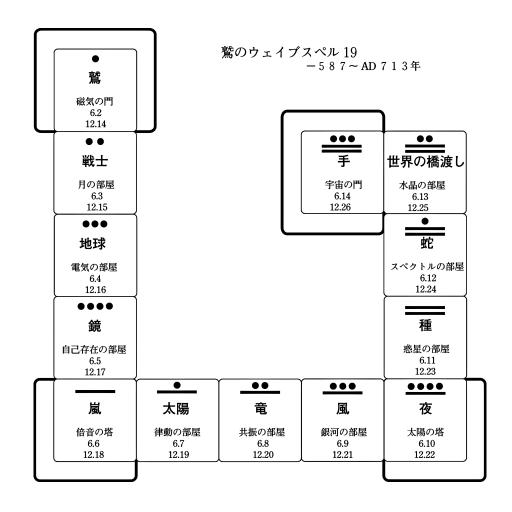
白い宇宙の魔法使い、キン234は、カール・ユングの銀河の署名で、彼は現代人のために原型理論を詳しく語った。このキンはまた、O. J. シンプソンの銀河の署名でもある。墜ちたヒーローの現代アメリカ的な原型、アメリカの没落の前兆である。この時期に、いまは魔法使いの年なので、マーリンを召喚しよう。道が正しい時間の中にあるとき、霊は、人々の心へと回帰する。人々の心に霊があるとき、魔法使いは戻ってくる。

魔法使いは塔の中に、人々はその力の中に。

ウェイブスペル・リポート5

風のウェイブスペル 18 (- 1887~- 587年):「風の回帰」 倍音の月 17日~律動の月 1日 (グレゴリオ暦:1995年12月1日~13日)

鷲のウェイブスペル 19 (- 587~AD713年):「ヴィジョンの回帰」 律動の月2~14日(グレゴリオ暦:1995年12月14日~26日)



歴史から学ぶことのできない者は、歴史を繰り返す運命にある。この書き物をしている時点、律動の月2日、青い磁気の鷲に、火星の空歩く者であるクリントン王は、フランスのパリにいて、オハイオ州デイトンにある空軍基地出動に関しての平和条約に調印した。この平和条約は、東欧のバルカン地域のセルビア、クロアチア、ボスニアの戦争状態にある民族集団のあいだに関することである。デ

ジャ・ヴュ様式で地図が現われ、その地域を3つの軍事占有地域に分割するのを見せてくれる:アメリカ、イギリス、フランスだ。ボスニアのツズラに雪が降り、ドイツにたどり着いたアメリカ軍は、輸送飛行機、バス、列車に乗ってハンガリー経由でボスニアに向かった。平和条約にもかかわらず、セルビアの人々は誰も幸せそうな顔を見せない。そこには、6万人のNATO和平軍によって強要され、改変され、線引きされた国境を持つもうひとつの地図がある。

サラエボ。パリの平和条約。第一次世界大戦。1914年にサラエボで始まった戦争、はじめての世界大戦、すべての戦争を終わらせる戦争、世界の「民主主義の安全を守る」ために戦われた戦争は、81年以上を経た今も続いている。第一次世界大戦の同盟国、アメリカ、フランス、イギリスは、バルカン諸国の中心地域を占めている。パリ周辺のヴェルサイユで調印された平和条約は、1919年、国際連盟を生じた。それから20年後、第二次世界大戦のはじまりとともに、国際連盟はその機能を停止した。

第一次世界大戦よりもさらにひどい第二次世界大戦は、勝利を疑わしいものにしたテクノロジー的な解決方法で終わった。戦争を終わらせたというより、核兵器が戦争の精神病や戦争経済を、冷戦の二世代にわたって永続させることになった。そして、「共産主義帝国」の崩壊で、平和になるはずだったところが、そうでなくなった。第一次世界大戦による最初の傷口が再び開き、また醜い突発的な戦火があがった。そう、今世紀はまったくの戦争の世紀である。平和を守るために1945年につくられた国連は、戦争地域における単なるもうひとつの軍隊にほかならない。もちろん、クリントン王のパリ到着の前日には、ニューヨークの株式市場は、5216ポイントという空前絶後の高値をつけた。

「彼らに向って『地上で悪いことばかりするな』と言えば、 彼らは『なにわしらは世の中を善くしようとしているだけだ』などと言う。 何んの、何んの、彼らこそ世を堕落さす者どもだ。 だが自分ではそれに気付いていない」(『コーラン』2:11~12、井筒俊彦訳)

鷲のウェイブスペルの終わり、律動の月 14 日、青い宇宙の手(グレゴリオ暦: 1995年 12月 26日)までに、アメリカ軍の完全な派遣団、「君のなれるものに、みんななろう」のヤッピー軍隊が、第一次世界大戦様式の塹壕に集まる。彼らは、末期の勝利者の精神病に苦しみ、完全にそれみずからのプロパガンダによって催眠状態に陥り、「平和の軍事的な強要」が戦争ではないと信じている。刑務所は、犯罪の答。仕事と金銭は最高の価値を持つ。アメリカは、審判の日が最終的にここに来ていることをまったく知ることができないでいる。

公的なニュース媒体が現在の状況を説明するにあたって使わない3つの用語は:「第三次世界大戦」、「審判の日」、「千年紀」である。G7の影、戦争中毒の陰謀の解明は、歴史における鷲のウェイブスペル、-587~AD713を特徴づける強固な帝国主義の現象的な倍音である。

ヴィジョンの建設的な力を表わし、それによってキャメロットが取り戻される3つの力のうちの2番目である鷲はまた、木星の太陽の預言的な力である。G7は、ひとりの鷲、青い倍音の鷲のジョージ・ブッシュによって設計された。軍事的な和平(戦争=平和)と金融政策というG7の方針は、G7のカモとなったサダム・フセイン、青い水晶の鷲に支援され、助けられた。いまやクリントンの「私は大統領であるよりも、正しい者でありたい」という文句とともに、鷲のウェイブスペルに乗ると、人類のヴィジョンの影が最終的なものであることがはっきりする。

いま起こっていることは、火星の経験の未解決のカルマ、そのすべての最終的な「審判の日」の再演である。火星の死の恐れは、仕事を確保するという気持ちへと変わった。仕事および仕事の確保という概念は、人類の霊的なあこがれの中でも新しい最低値をしるす。仕事の確保、保険会社、医薬産業が共通に支持し強化しているのは、聖なる計画の完全な記憶喪失である。いっぽう、国内的にアメリカは崩壊し、犯罪であふれている。1995年全体の株式市場の利益は、4兆円近くに達している。致命的な規模での道徳的な動乱を体験している人間は、まず他でもないアメリカ人である。そう、クリントン王は、火星の死の望みの最終的な再演を行なっている。これは試演ではない。

決断は、正式に発表された。12:12、倍音の月 28 日、赤い水晶(音 12)の空歩く者、霊のウェイブスペルにおける火星の太陽の預言的な「預言の円卓」が開かれた。次のような宣告がなされた。「地上の審判の日」。もしそれが審判の日であるなら、審判の日の計画がなければならない。そのバビロニア的で帝国主義的な拡大政策にもかかわらず、もともとの歴史の鷲のウェイブスペル、- 587~AD713は、よく知られた霊的な指導者たちの出現に特徴づけられている。

ヴィジョンの周期を開始した仏陀は、鷲のウェイブスペルのはじまりに生まれた。ほぼ同時期に中国では、老子や孔子。またピタゴラスやプラトン、ソクラテスがギリシアに登場する。鷲のウェイブスペルの中期には、歴史が(※訳注:紀元前と紀元後に)分割される形で、キリスト、聖別された者が、イスラエル人に送られた最後の預言者だった。そして、仏陀の出現からキリストの登場までとほぼ同じ期間が、キリストの登場から経過した時点で、最終的な使者、「預言者たちの封印」、マホメット(AD 570~632年)がやってきた。マホメットは、彼の遺産、たいへんに誤解され、また無視されている『コーラン』、「審判の日の書」を受け取り、それを残した。

バビロニアのバチカン・キリスト教会により包囲されたことによって、イスラムの (イスラムとは、「神の意志に対して平和裡に従う (絶対的な帰依)」という意味を持つ) 信仰は、主流となるヨーロッパあるいは新世界全体へと入り込むのを妨げられた。事実、イスラムの最後の政治的なヨーロッパへの侵入は、バルカン諸国におけるオスマン帝国の残存者たちによるものだったが、それも第一次世界大戦に終結させられた。

まさにイスラムに向けられた公的なキリスト教の長年にわたる態度により、ムハーディン、国際的なイスラムのジハード(聖戦)もまたボスニアに集結している。特にそれは、アメリカをターゲットにしている。なぜなら、アメリカ軍の指令官、火星の空歩く者、クリントンは、この地域にみずからの軍隊を派遣する決断をしたからである。そして、未解決の歴史のカルマすべての貯蔵庫、審判の日、最終的な火星の死の望みが、いまやはっきりと現実的なものなっている。

そう、それは地上の地獄である。しかし、審判の日とともに、審判の日の計画がやってくる。それは 12:60 の審判の日だ。だが、13:20 には「正義の者たちの庭園」がある。ハヌカが、律動の月5日、白い自己存在の鏡(グレゴリオ暦:12月17日)にあることに注意しよう。その翌日は、倍音の塔、青い倍音の嵐である。自己発生の倍音の力を表わすこの日は、霊的なヴィジョンの力において高揚し、審判の日がすべての終わりではなく、現在、私たちが知っている時間だけの終わりであることを知る日である。冬至は、太陽の塔、律動の月10日、青い太陽の夜(グレゴリオ暦:12月22日)である。夜は、豊かさを強奪したG7の力を表わす。闇が、その最も大きな規模になり、光はいままさに戻ってこようとしているこの瞬間に、この塔をうけとることで、G7の死の諸悪はテレパシー的に溶解し、解き放たれる。

クリスマスの前日、律動の月 12 日は、赤いスペクトルの蛇(グレゴリオ暦: 12 月 24 日)である。これは、65 日間の赤い蛇の銀河の季節の最後の 5 日間を閉じる。これは、現在進行中の、1 年全体、白い電気の魔法使いの 13 の月とフラクタルの関係にある 13 週間(ウェイブスペル・リポート# 1 参照)とともに始まった。根源的な—アダム・カドモンの—マルデクの力は、いまだあがなわれてはいないが、スペクトルの音 11 と結び合わされたこの日は、起源のマルデクの破壊、人類の血塗られた未解決の歴史におけるカインとアベルの赤く荒々しい最も古代のカルマの糸、そしてその結果生じた聖なる計画の記憶喪失を表わしている。

赤いスペクトルの蛇は、パカル・ヴォタンの石棺の蓋の縁にある 13 の「はっきりとしたしるし」 のうちのひとつである。赤いスペクトルの蛇は、カルロス・サリナス・デ・ゴルタリ、すなわちメキ シコ前大統領の銀河の署名である。彼の在任中の1988~1994年、G7が明るみにでて、預言、パカル・ヴォタンのテレクトノンが明らかにされた。パカル・ヴォタンの預言を拒絶したデ・ゴルタリは1995年、世界商工会議所を率いていたが、自分の国から逃亡することになった。報告によれば、彼は麻薬資金に関わる共謀のため、FBIの捜査段階にあるという。

この問題の事実は、デ・ゴルタリが、それまでの 60 年間ではじめてバビロニア的なバチカンと公的な関係を結んだメキシコの大統領であり、彼がコロンビアと米国を結び、麻薬資金の流れの中心線にいる人物だったということである。この麻薬の中心線は、最初にジョージ・ブッシュによって 1959年に、「秘密政府」の資金調達のために監督された。1994年9月24日、国連の49周年のオープニングに、4人の基調講演者が並んだ。クリントン、エリツィン、メキシコのデ・ゴルタリ、そしてコロンビアのサンペルである。

翌日の律動の月 13 日の金曜日、クリスマスの日はヴィジョンの円卓であり、そしてもうひとつの 火星の円卓、審判の日の白い水晶の世界の橋渡しの円卓である。「13 の月の暦」では、キリストの誕 生日は常に 13 日の金曜日である。12 人のキリストの使徒の中で、キリスト自身は常に 13 番目だ。 今年、キリストは、12 人の使徒を火星の死の円卓の形で集める。火星の預言の円卓ではじめられた ものが、火星の死の円卓で公式化される。審判の日は、最終的なものなので、審判の日の計画はいま やそのヴェールを脱いだ。「第一回・生物圏の権利の惑星会議」は、普遍的な平和の勝利のための審 判の日の計画である。

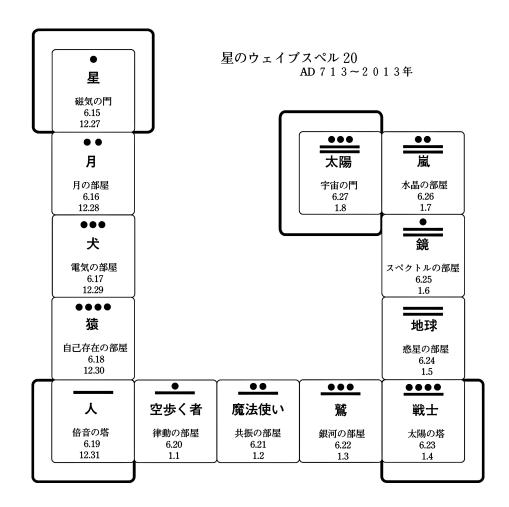
歴史の鷲のウェイブスペルでマホメットに続く最後の使者は、もちろんパカル・ヴォタンである。もしパカル・ヴォタンがいなければ、仏陀、キリスト、マホメットといった偉大な指導者たちによって創設された宗教は、統一される機会を持つことがなかったに違いない。神あるいはアラーに「時間の並はずれた証人」として任命された偉大なるマヤの賢者(AD 6 0 3~6 8 3 年)は、人類すべてに 12:60 からの即座のあがないと、13:20 への同じくらい即座の参入をもたらす預言的な保護手段の計画を敷いた。

いま、それがやってくる。審判の日の計画、普遍的な平和の勝利である。次のスピンでそれを見てみると良い。北半球での冬至から春分にかけて、光は増大し、南半球では同時に光は減少する。「魔術は、生じている。魔術は決して死なない。神はいまも生きている・・・」。バフィー・セイント・マリーの言葉はいまも生きている。アメリカ人のひいきにする無神論者マダリン・マーレイが、その歌の最後の部分の「全世界が地獄に行く」に失望したとしても、それはいまも生きている。

イブニング・ニュースの放送、毎夜の地上の地獄の報告に対して、すべての世界の予見者、教師、預言者、使者たちの良き救済計画が最終的にやってきた。地球は銀河的になる。ブラジルでは、春分の日、太陽の月 15 日までに、イエローサブマリンが、もう一度帰ってくる。時間船地球 2 0 1 3 は、やっと好機を迎えている。それ以降、13 の月の勝利の日、水晶の月 28 日、1 9 9 6 年 6 月 26 日に向けての審判の日のカンウトダウンが続く。これがずいぶんと未来を先取りしているように思えるなら、いまがヴィジョンの鷲のウェイブスペルであることを思い出そう。マーリンが、ヴィジョンという光線で惑星場に種を植えている。そのビームをつかまえようとする者は、誰だ?

ウェイブスペル・リポート6

星のウェイブスペル 20 (AD 7 1 3~2 0 1 3年):「美の回帰」 律動の月 15~27 日 (グレゴリオ暦: 1 9 9 5年 12 月 27 日~19 9 6年 1 月 8 日)



この報告で、6つのウェイブスペル、自己存在の月6日から律動の月27日まで、すなわち夜から星のウェイブスペル、キン183からキン260までのウェイブスペル(グレゴリオ暦:1995年10月23日から1996年1月8日まで)のひと連なり、「アメリカの没落とキャメロットの回帰」は終了する。星のウェイブスペルは、260日、260キンの1銀河スピンを作り出す20の「13の音のウェイブスペル」のひと連なりにおける20番目で最後のウェイブスペルである。

この特別な銀河スピンは、1987年6月23日、キン1、赤い磁気の竜の、「新しい施し(体制)」

の調節された日付の数え方のはじまりから数えて、12番目の銀河スピンである。12は、法則の立方体の数。しかし、13は、時間の運動の数字だ。13番目の銀河スピンは、預言の第3年、律動の月28日から預言の第4年、電気の月6日まで(グレゴリオ暦:1996年1月9日から9月25日まで)で、それが1987年6月23日からの「新しい施し」の日の数え方のはじまりからの260のウェイブスペルを完了させる。この「新しい施し」の日の数え方は、チラム・バラム、「ジャガーの神官」の伝統に基づき、AD1519年の征服時、その数え方は7月16日に関連づけられていた。そしてAD1582年、グレゴリオ暦への改暦の後に7月26日に調節された。

「新しい施し」あるいはドリームスペルの数え方は、銀河的な真の時間の旗のもとに人類を統一するためのパカル・ヴォタンの贈り物である。「新しい施し」の 13 番目の銀河スピンは、260のウェイブスペルを完了させるとともに、260キンの銀河スピン、ツォルキンのひとつの全体フラクタルを完了させる。そこでは、1987年6月23日から1996年9月25日まで、1ウェイブスペルが1キンに等しい。

この12番目の銀河スピン、預言の第2年、惑星の月20日から預言の第3年、律動の月27日まで(1995年4月23日から1996年1月8日まで)は、審判の日のスピンであることが明白だった。夜のウェイブスペルまでに、審判の日を演じる者たちは、配置につき、固定された。数千年前に動きはじめたカルマ的な力によっていま導かれている活動前線は、実際には、恒星系キニチ・アハウ、別名ヴェラトローパ24の中のその他2つの惑星、マルデクと火星で最初に確立された。審判の日は、霊的な人間の進化のための次の機会である。13番目のスピンは、審判の日以降に人類を待ち受ける、霊的な進化の急速なプロセスのための方向と手段をはっきりさせるべく確定される。

星のウェイブスペルの最初の5日間、人類は致命的なAD1995年を終了させる。磁気の門、美の約束で開く、黄色い磁気の星、キン248は、翌日の赤い月の月に向かっていく。これが、G7、7つの頭を持つ獣の溶解のしるしだ。これは、65日間の蛇の周期、自己存在の月8日(1995年10月25日)にはじまった赤い銀河スペクトルを終了させる。星のウェイブスペルの3日目、律動の月17日、白い電気の犬(1995年12月29日)は、65日間の犬の周期、白い銀河スペクトル、愛を洗練させる季節を開始する。愛の波に乗った13番目の銀河スピンを安全に通過するために、テレパシー的にこの日に焦点化しよう。

7つの頭を持った獣が、断末魔の苦しみにあえぎ、怒っているあいだ、倍音の塔、律動の月 19 日、 黄色い倍音の人(1995年 12月 31日)を受け取る。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア の銀河の署名である、黄色い倍音の人は、美の力を命じる自由意志の輝きを表わす。キャメロットの 3つの建設的な価値のうちのひとつである美は、その真の性質が完全に霊的な価値である、1ドル紙幣に描かれたピラミッドの光り輝く頂上として現在認識可能な力である。真の美は、地上的な現象すべてが所有する超越的な急迫状態であり、実際にそれは唯一者に向かうすべての存在のあこがれを呼吸しているものだ。律動の月20日(AD1996年、グレゴリオ暦の新年)、赤い律動の空歩く者は、すべての人類に対して預言の同等の力の約束をもたらす。

太陽の塔、律動の月 23 日、黄色い太陽の戦士までに、自己存在の空歩く者、クリントン王の火星の死の望みが、サラエボとして知られる歴史の染み出した沸騰点で最高潮に達する。律動の月 26 日、星の円卓、青い水晶の嵐(1996年1月7日)までに、アメリカ軍全員がボスニアに到着する。最後の日、星のウェイブスペルの宇宙の門、、律動の月 27 日(1996年1月8日)、黄色い宇宙の太陽、「あらゆるものをスタートさせた」アルバート・アインシュタインの銀河の署名の日までに、人類の愚行と攻撃の審判のために、どんな美の堕落が目撃されるのだろうか? これに応えるかのように、アメリカの最後の王に向けられた次の報告が適切にも提示される。

「米国大統領に向けた宇宙連合1・24 A-25。人が人に対立する猛威に直面した私たちは、この伝言を、あなたがみずからを押し込めようとしている悪と破壊に気づいてもらうために宇宙からお送りします。地上におけるあなたの力は大きなものですが、宇宙の範囲内ではそうではありません。だからこそ、あなたの科学的な進歩は、あなたの核施設と同様に停止されるべきものであり、そうでなければ人間は、みずからの深淵の中に急速に落ち込んでしまうことでしょう。人間が自分たち自身を破壊する傾向を今すぐにやめなければ、嫌悪、反逆、虚偽がますます大きくなり、7つの大災がさらに早まることを見い出すでしょう。地球それ自体が人間を罰しようとしています。地球の弱い外形は、猛威を吐き出しはじめます。それは、人間自身が引き起こしたものです。あなたの戦いは、災害を引き寄せます。なぜなら、人間の武器はそれぞれ互いに向けられるからです。強い国家は、それより弱い者、弱者のパンを食べようとします。パニックや恐ろしい出来事がやってくるかもしれませんが、それでもこれまで苦しんできた人々のあいだには幸せもあるでしょう。

多くの国々で、血生臭い戦争がやってきます。しかし、それらは、より多くの破壊力を持った国々ではじまることでしょう。しかし人類は、その進化の準備を受け取ることでしょう。大統領、あらゆるレベルでの武器の開発をやめることが必須です。そうでなければ、地球はその非平衡状態をさらに増大させます。人類は、毎日の昼夜の経過をより早く見ることになるでしょう。もし人類が、この大虐殺から目を覚まし、SOSの信号を聴こうとするなら、地球はそのはじまりから神が私たちに与えてくれていた楽園になるでしょう。あなたは、私たちがこの任務を与えた人々に対して、地球が支援しているところをそれぞれの場所で見ることでしょうし、そこに私たちの存在のしるしを見るでしょう。私たちの支援を提供するために、私たちはより近づきます。創造主 24-25 Z 平和、幸福、

聖なる統一、スペース・ブラザーズ」(J. B. マイケルズ著『UFO遭遇』1995年、227~ 228ページから引用)

AD1996年。13州の植民地の最初の大陸議会から208年、クリントンの軍隊がヨーロッパ対立のムスリムの領土のまれにみる侵略を開始する。これに対して、ジョージ・ワシントンだったら、何と言うだろうか? ムスリムは、クリントン王の軍隊に値するようなことを、いまだかつてアメリカに対してしたことがあっただろうか?

美の星のウェイブスペルの13日間の暗闇の影は、歴史、そして人類進化の最後の26000年、自由意志のテストゾーンの中の人類の試験期間、その最後の1300年間のフラクタル倍音である。歴史のこのウェイブスペルは、AD713年から2013年までだ。黄色い星で表わされるこの20番目で最後の1300年周期は、聖なる計画と人類の意志を結びつける、聖なる人類の潜在能力の成就と実現が意図されていた。星の歴史のカルマ的な開示、聖なる知性と自由意志の根源的な創世記以来、その進行が完了するにつれ、星のウェイブスペルは、審判の日として知られる預言的な最高点を迎えることを宣言する。

AD713年。歴史の星のウェイブスペルのはじまり。旧世界、イスラムでは、輝くばかりの新しい霊的な勢力が、起源のバビロニア帝国だった古代中東を圧倒していた。新世界、マヤでは、同じくらい輝くばかりの文化的な勢力がメソアメリカの密林の中でその最高潮に達していた。これら2つの勢力の背後には、歴史の星のウェイブスペルと、キャメロットとして知られる人類のあがないのために特別に用意されたひとりの使者とひとつの伝言があった。キャメロットは、アラーによって定められた庭園であり、ウッドストックでもたらされた。それは、審判の日の後の地上の「正義の者たちの庭園」として知られ、実現されるようになる。

イスラム、「平和の信仰」の背後にある力は、『コーラン』として知られる純粋な聖なる書である。『コーラン』とは何だろうか? 『コーラン』とは、アラーが直接、預言者マホメット(AD 5 7 0 ~6 3 2 年)に語りかけた「審判の日の書」であり、それは星のウェイブスペルのあいだ、13 の月の回帰の時まで、人類を支援し、統一するためのものである。イスラムの伝統的な表象は、星と三日月であることにも注意しよう。

神秘的なマヤの背後にある力は、パカル・ヴォタン(AD 6 0 3 ~ 6 8 3 年)による「審判の日の計画」、テレクトノンへと凝縮された四次元の時間の数学だった。マホメットの生涯の最後の 29 年間は、パカル・ヴォタンの生涯の最初の 29 年間に等しいことにも注意したい。歴史的なバビロニアのキリスト教勢力が、同時期、AD 1 4 9 2 年に始まって、歴史上のイスラムとマヤの文明を飲み込ん

でしまったために、パカル・ヴォタンの審判の日の計画は、その必要な施しの時、キン144、黄色い磁気の種(AD1993年7月26日)まで、地球霊の通話管の中に保たれたままになっていた。

このアポカリプス的な日付、千年紀のはじまる7年前までに、バビロニア的なバチカンとその子孫、7つの頭を持つ獣が、偽りの12:60の時間という悪魔的な計略で、この惑星を要求した。包囲された歴史上のイスラムは、長いあいだ「平和の信仰」を表明することをやめていた。だが、ほとんどの西洋人に無視され、嫌われていた『コーラン』は、審判の日に関するアラーの証言として傷つけられないまま保たれた。

「野獣ら続々と集い来る(恐怖のあまり、みんな一箇所に集まって来る)時、 海洋(わたつみ)ふつふつと煮えたぎる時、

魂ことごとく組み合わされる時(復活のため、いままで離れていた魂が 肉体とまた組み合うのである)、

生埋 (いきうめ) の嬰児 (みどりご。古代アラビアでは女の子が生まれると そのまま生埋めにする風習があった) が、

なんの罪あって殺された、と訊かれる時、

帳簿(各人の行為が詳細に記されている天の帳簿)がさっと開かれる時、 天がめりめり剥ぎ取られる時、

地獄がかっかと焚かれる時」(『コーラン』81:5~12/井筒俊彦訳)

第3部 赤い惑星、青い惑星

ハーモニック・コンバージェンス 9 周年の宣言 最終的なトータル・リコール

「もし本当であれば、それはいままでに為された科学上の発見の中でも、最もエクサイティングなもののひとつに違いない」。NASAと3つの大学の科学者たちによってなされた火星上の生命の発見に関する報告について、天文学者マイケル・ドレイクはこう語った。他の科学者も、人類が他の世界を見ようと天空に目を向けるようになって以来、最も壮大な発見かもしれないことを裏付けた。カール・セーガンは懐疑的で、そしてNASAのダニエル・ゴールディン局長は、「私たちは小さい緑の人間についてしゃべっているわけではないことを皆に理解してもらいたい」と語った。科学者たちが「生命の原始的な形」が火星上に存在したと決定づけたニュースは、『USAトゥデイ』の第一面を飾っていた。そして、事実上、1996年8月7日の米国のあらゆる新聞がこのニュースを取り上げた。

なぜこんなにも注目され、騒がれているのか? この「発見」は、1984年、南極で発見された 火星のいくつかの岩石からなされたものである。この岩石は、「アランヒルズ(Allan Hills)84001」と呼ばれる隕石からのもので、その岩石は、数百万年前から45億年前と推定される火星上の 物質から構成されていた。この隕石自体が地球を襲ったのは、ほんの1万3000年ほど前のことと された。この発表が現在の12:60の科学的なパラダイムにとってあまりにも信じがたいことだった ので、クリントン大統領とゴア副大統領のために簡潔な報告書が用意された。この発見は、公的には 1996年8月16日にリリースされる予定だ。この日は、ハーモニック・コンバージェンスの9周年の記念日である。この日ほど、ひとつのパラダイムを溶解し、別なものを確約するのにふさわしい日付は他にないだろう。

確固たる 12:60 の物質主義的な科学がはじまってからというもの、その科学は、生命が偶発的にこの惑星上で生じたこと、また地球以外での生命の可能性など事実上、考えられないという教義を保ち続けてきた。だが、もし生命の定義が、「一元化された現象(※訳注:ここで「一元化された」とは、連綿と世代を経て続く生命の連続性をひとまとまりとしてとらえることを指す)――たとえばDNA――として認識され、立証されるうるもの」なのであれば、真に震えるような興奮をもたらすものとして考慮すべき事柄は、どこか遠くにある生命ではなく、過去の世界における私たち人間の生についてではないだろうか。

1996年8月7日(新しい「13の月の暦」で磁気の月13日の金曜日)の公表は、NASAの情報バンク、そして人類が火星上の生命に示す関心の、南極「氷山」のほんの一角にすぎない。NAS

Aは、このように「ついうっかりして秘密をもらす」ことで、何かもっと大きな事柄を単につくりだそうとしているのだろうか? アーノルド・シュワルツネッガーが登場した映画「トータル・リコール」を覚えているだろうか? 「赤い惑星」での最後の破壊的な日々の記憶が何度もよみがえるというのが、あの映画の恐怖をあおるテーマだった。もしそこにまったく真実がないとしたら、あの映画が心の琴線に触れ、共感を呼び起こすことなど不可能だっただろう。

1976年7月25日、「13の月の暦」の緑の日、「時間をはずした日」に、NASAのバイキング探査船は、その日以来「火星の人面」として知られるようになる現場写真を送ってきた。もちろん、NASAは、その「人面」は偶発的に生じたただの岩の影でしかないと主張した。もしDNAが一元化されたまとまりを持つのであれば、そして火星からの岩石中にDNA形態のあることが確かめられたとしたなら、そのとき「火星の人面」は、私たちがいま自分の生きているこの世界だけでなく、その他の世界についてもトータル・リコール(完全に思い出す)するかなめ石となる。この前提が暗示すること、およびその前提により12:60のパラダイム全体が取り消しのできない形で解明されうるからこそ、「火星上の生命」のニュースが新聞の第一面を飾るのだ。

赤い惑星、青い惑星:緊急非常事態 「放射生命」的な進化の指令

NASAの待機戦術におけるこの時点での科学的な発見の急所は、火星の地表から天空を見上げて 承認を求めている「人面」にあるのではなく、1万3000年前にこの地球を襲った隕石、およびそ れが南極で1984年に発見されたことにある。1万3000年前とは、氷河期の終わりにあたり、 「トラフ」の温暖化が生じることで、ホモ・サピエンスが農業や、私たちが現在知っている文明への 進路を歩みはじめた時期である。ドリームスペルの宇宙論によれば、それは1万3000年間の「竜 の創世記」の終わりであり、7800年の「失われた」「猿の創世記」のはじまりにあたっていた。

1984年4月21日、南極で火星からの隕石と思われる物体が発見されたのと同じ年、ハーモニック・コンバージェンスの創始者であるホゼ・アグエイアスは、『赤い惑星、青い惑星:緊急非常事態 (RED ALERT)』と題された「時間地図(タイムマップ)」を完了させた。アグエイアスは、その時点で、1984年に隕石が発見されたことは知らなかったが、1976年7月25日の火星の人面を呼び起こす写真については知っていた。その火星の人面が、アグエイアスに「時間地図」を描かせるよう促し、その地図は赤い惑星火星と青い惑星地球の宇宙的なつながりを示すものだった。この「時間地図」の原稿は、次のような文章ではじまる。

「致命的な反転の時点で、核戦争が赤い惑星を荒廃させた。また地磁気場を混乱させ、それと同時に彗星/隕石の雨を引き寄せた。その彗星は惑星をかするように接触して大きな災害を引き起こした。このようにして赤い惑星上のすべての生命の終わりが確実なものになった。時代:50 万年から330万年前」

アグエイアスの1984年の原稿は、火星を横なぐりにかするようにして接触した彗星が、そのまま気まぐれな進路を継続し、「青い惑星上で、隕石の雨となって太平洋に衝撃を与えた」と描写している。したがって、この「太平洋」に、「南極」をつけ加えてもよいだろう。

『赤い惑星、青い惑星』の原稿では、「緊急非常事態(RED ALERT)」とはデジャ・ヴであり、次のような進化的な指令であると書かれている。すなわち:

「二重的な惑星記憶のつながりを明らかにし、そうして<放射生命的な進行の法則>を説明する。 <放射生命的な進行の法則>とは、一貫性のない最大の相称(双方)分化の複合状態に引き続いて、 <放射状>プログラム構造に向かって進む生命形態の傾向のこと。このターニング・ポイントは、< 致命的な反転>(vital reversal)として知られ、惑星大気の新しい構成要素となる残留性の放射能を もたらした核実験を通して触発される」。

言い換えれば、DNAは一元化された 64 単位の宇宙コードであるため、ひとつの惑星上でのDNAプロセスに対して、またそれを通して起こったことは、同じDNAコードが植え付けられた隣りの惑星で継続するだろう。惑星全体の中で進化するDNAが自己反射的な(※訳注:自己を顧みる、振り返る)知性の段階に到達するにしたがって、それはサイフィールド(精神場)あるいは自己反射的なメモリーバンクも進化させる。<致命的な反転>の時点に引き続くのが、サイフィールドの自己反射的な活性化であり、それが生命をその放射状プログラムへと前進させる。この可能性は、火星の生命の自己破壊で迂回した。だが、「赤い惑星、青い惑星」の原稿は、次のように続く。

「赤い惑星のサイフィールドが分解するにつれ、高度に集中化した思考形態、おそらくはレーザービームとしてコード化されたものが、次の最も近隣にある惑星体、青い惑星へと伝送された。そこでは、そのビームが青い惑星のまだ未発達なサイバンクを銀河の記憶ノードならびに水晶体指令として受胎させた」

青い惑星のサイバンクに刻印された、赤い惑星の「銀河の記憶ノード」は、イタリア人の天文学者、スキアパレリが自分の望遠鏡を通して火星を見つめていたときに活性化された。彼が有名な火星の「運河」を発見したことに加えて、赤い惑星は原型的な名称でそのきわだった特徴をはっきりと示すことになった。すなわち、アトランティス、レムリア、ユートピア、エリジアム(エリシュウム)、シドニア、オリンポス山、などである。「水晶体指令」に関してだが、「水晶体」とは現象的なリアリティのあらゆる構成要素の五次元的な純粋な心の形を指している。ピラミッド、マンダラ、霊的な脱出(出現)の時間トンネル、相称(双方)的な知性の構造——これらすべては、「水晶体指令」の通信形態とみなされるだろう。

アグエイアスの「時間地図」では、青い惑星は火星の「致命的な反転のライン」を1945年に交差した。これがゆえに、放射生命の日付で、広島の原爆がゼロ・ポイントとなっており、アグエイアスの「時間地図」の実際の日付は、「4・21・38AH、地獄の悲惨」となっている。ここで 38AHとは、広島(の原爆)から 38年が経過したこと、「地獄の悲惨」とは、13の天国と9つの地獄の預言を指しており、その預言の中では9番目で最後の 52年間の地獄の周期が1935年にはじまった。そして、それは1987年のハーモニック・コンバージェンスで終わることになっていた。「時間地図」によれば、広島は「共振的な再現」のポイントを開始させ、それが「回帰のないポイント」、1986~1987年で最高潮を迎えることになっていた。

共振的な再現の根拠として、「時間地図」は、「二重的な記憶のつながり」のはっきりした事例を提供している。それは、「火星の人面」とイサム・ノグチの「火星から見られる彫刻」である。ノグチの企てた彫刻は、もしそれが完成していれば、「火星の人面」と同じ規模のものになっていただろう。その彫刻の着想が生まれたのは、1947年(2AH)。バイキング探査の29年前、すなわち42年間の「放射生命の猶予期間」の初期にあたるノグチの彫刻による火星の人面の追憶は、共振的な再現の充分な根拠となる。アーノルド・シュワルツネッガーの「トータル・リコール」も、もうひとつの事例である。

1987年の「回帰のないポイント」に引き続くのが放射生命の時代で、それは、一種の「ジャンプスタート」(※訳注:一般に車等のエンジンの押しがけのこと、また活性機能を持つもののことを指す場合もある)を通して緊急非常事態を触発した。この放射生命の時代への「ジャンプスタート」が、1987年8月16日~17日のハーモニック・コンバージェンスだった。260日の銀河スピン上で、1945年8月6日の広島の放射生命的なゼロ・ポイントの日付は、<青い電気の鷲>である。1987年8月16日もまた<青い電気の鷲>だという事実が、放射生命の時代への「ジャンプスタート」が、時間において適切なポイントである理由である。

ハーモニック・コンバージェンスは、完全な記憶喪失を克服し、青い惑星上で再び火星効果が生じないようにするための「ジャンプスタート」だった。神秘的な 14万4千人の残存者は、確かにこの呼びかけに注意を払った。だが、1519年から1987年までの9つの地獄の「悲惨」に引き続いて、審判の日の召喚がやってきた。

審判の日、火星が呼びかける、この呼びかけにどうか応答を!

「天と地の創造の方が、人間の創造などより遥かに偉大なこと。 だが、大抵の人間にはそれがわからぬ」 (『コーラン』40:57、井筒俊彦訳)

アグエイアスの『赤い惑星、青い惑星:緊急非常事態』の日付、「4・21・38AH」は、銀河スピン上では<青い宇宙の夜>である。1993年7月25日、タイムシフトのはじまりの<青い宇宙の嵐>の年の「時間をはずした日」もまた、<青い宇宙の夜>だった。バイキング探査船が火星の人面の写真をとった日からちょうど17年後、アグエイアスに再び不思議なつながりが生じた。一種の共振的な再現テキスト、『De Tulan el Lejano(遠いトランから)』が彼に手渡されたのだ。翌朝、キン144、<黄色い磁気の種>にこの本を開くことで、専門技術者の長であるアグエイアスは、直接「テレクトノン、地球霊の通話管」と呼ばれる預言を解読するべくそれにつながれた、もしくはそれが彼に明かされた。

それから 5 週間後の 1 9 9 3 年 8 月 25 日、集中した解読作業と「時間の地図作成」のあとに、アグエイアスは彼の妻ロイディーンに、ちょっと外に出ようかと持ちかけた。彼はこの 5 週間、ハワイの作業場から一歩も外に出ていなかったのだ。「預言の第 1 年」のお告げを調べたアグエイアスは妻に、「この火星のことは、今年浮上してくるぞ」と妻に話した。そして、それが即座に現実のものとなった。ショッピング・モールに着いて車から出た途端、新聞の第一面の見出し「火星探査船、マーズ・オブザーバー、消息を絶つ」が目に入ったのだ。

報道によると、1993年8月24日、青い惑星から赤い惑星への長期にわたる旅のあと、NASAのマーズ・オブザーバーは、これまで公開されたことのない火星の地表の写真撮影をはじめようとするまさにその瞬間、「原因不明」の技術的な事故が生じたという。予定ではマーズ・オブザーバーは、なかでも「火星の人面とピラミッド」が確かなことなのかどうかを確認するために派遣されたものだった。「消息不明」というのが、NASAの説得力のない返答だった。NASAが何かを隠ぺいしようとする不器用な試みはあまりにも明らかであり、そのためこの出来事は議論の嵐を即座に引き起こした。

ドリームスペル暦で、1993年8月24日は、<赤い自己存在の空歩く者>の日だった。これは ビル・クリントンの銀河の署名である。<空歩く者>は、惑星火星の太陽の預言的な力、預言の力を 表わす。その日、ビル・クリントンはどこにいたのだろうか? ジャッキー・ケネディ・オナシスの ヨットにである。ジャッキー・オナシスの銀河の署名は、<白い自己存在の世界の橋渡し>で、<赤い自己存在の空歩く者>とは完璧な「類似のパートナー」となる。<世界の橋渡し>は、惑星火星の銀河のカルマ的な力、死の力を表わす。その会合の時点から1年もしないうちに、ジャッキーは癌で死亡した。また、それから2年ほどたって、ケネディの記念となるあらゆる品々がオークションで販売され、「キャメロットの販売」だと騒がれた。キャメロットは、火星が隠ぺいされたために売られたのだろうか? そして、ビル・クリントン、彼はどうなるのだろうか?

テレクトノンの預言によれば、いまや惑星地球上で審判の日である。それはキリスト教のアポカリプス(黙示)ではなく、マヤのアポカリプス、あらゆる預言のハーモニック・コンバージェンス(調和的収束)である。マヤのアポカリプスで、審判の日は、トータル・リコールのテストである。人類が審判の日を引き起こすのは、人類が生物圏の他の生物と切り離された道を歩んだからである。人類は、みずからの時間、人工的な 12:60 の時間を生きたことにより、その記憶喪失をさらに促進し、機械の比率でみずからの人口増大を加速した。その間、システマティックに、それもわずかな利益のために、生物圏の生態維持の編み目を損傷させ、破壊した。

人類の自己審判と救済に関して明らかになった新事実は、その過ちおよびその修正手段に対する知識である。過ちの知識は、12:60 という人工的な計時周波数の摘発から成り立っている。バビロンに起源を持ち、グレゴリオ暦と機械時計を通して制度化された 12:60 は、いわゆる現代社会と呼ばれる世界で人類のあらゆる試みの基礎として受け入れられている。「時は金なり」、だが、そこにいったいどのくらいの犠牲(値段)が生じたのか?

12:60 の総決算は、無意識の火星のリプレイにある。すなわち、「一貫性のない最大の相称(双方)分化の複合状態」の創造である。分化した労働による不安定な精神状態は、給料の奴隷という仕事の概念へと制限された地平を持つ、麻痺させるような管理社会を通して、人類をみずからと自然の双方に対して争うようにさせた。機械の有用性に強化された一貫性のない複合状態は、ターニング・ポイントないしは核実験という致命的な反転を呼び込んだ。歴史的にこれは、AD1939~1945年の第二次世界大戦と時期を同じくしている。

あまりにも道徳的に自己疎外された人類は、その行為の当面の恐怖から学ぶ代わりに、広島や長崎の原爆よりも強力な何千何万もの核爆弾をいまだに生産し続けている。5つの国家政府は公式的に核兵器を所有し、また非公式的にはテロ組織がもう一方の反政府の側でバランスをとっており、人類みずからを恐怖の中で人質にしている。これが、審判の日の人類の真の政治の姿だ。

火星の記憶喪失の波の暗い波頭に乗っている人類にとって唯一可能な救済は、目を覚まして、生物圏の残りの種を司っている真の時間の法則に回帰することである。パカル・ヴォタンのテレクトノンの預言は、唯一 12 カ月の暦を拒否し、生物学的に正確な「13 の月の暦」を採用することによってのみ、人類はちょうど適切な時に、火星を思い出すことができることを明確に指摘している。これは根本的な第一歩となる。現在の暦を拒否することは、今日の値札のついた制度化されたリアリティ全体を拒否することである。世界を支配する人類のあらゆる法律は、グレゴリオ暦に埋め込まれている。立法による法律制度、政府、課税制度、給料制の概念そのもの、そして戦争も、バビロニアで誕生した偽りの暦と切り離すことはできない。グレゴリオ暦の排除は、マヤの歴史のアポカリプスである。

「だが、特に私は、あなた方に火星を見つめ、もう一度、私の石の縁のまわりにある 13 の聖なるしるしの配置を考慮してもらうことにする・・・」 (『パカル・ヴォタンのテレクトノン』、第113節)

1996年8月7日、火星上での生命に関するニュースが新聞に掲載された日は、<青い電気の猿>で、「銀河の活性化の正門」のひとつであり、かつパカル・ヴォタンの石棺の蓋に描かれている「13の聖なるしるし」のひとつだった。テレクトノンの戦士の旅の中で、この日は、立方体の位置7、13番目のバクトゥン、1618~2012年の「バビロン惑星」だった。秘密のG7の最高権力評議会の支配下でいらいらしながら、死刑執行の猶予とトータル・リコールの可能性が提示されているビル・クリントン、火星の空歩く者は、バビロニア時間の偽りの遺産を最後に受け継ぐ者である。

「天と地と、その間なるすべてのものを我らは面白半分に創ったのではない。 真面目に創ったのだが、大抵の者にはそれがわからぬ。 よいか、判決の日、それは誰もかれもが(喚び出される)定めの時」 (『コーラン』44:38~40、井筒俊彦訳)

火星上の生命の公式的な証拠が発表される予定の日 (※訳注:前出の8月16日のこと)から3日後が、ビル・クリントンの50回目の誕生日となる。それは、8月19日、<青い月の夜>の日である。テレクトノンでは、<夜>は土星の銀河のカルマ的な力で、G7、すなわちバビロニアのアポカリプスの力の最終形態を表わす。G7、すなわち先進7か国は、『黙示録』の第13章に描かれる「7つの頭を持った獣」である。<月の>音は、分極化する力と、「13の月」の月の力の双方を表わす。土星がG7によってコントロールされているかぎり、それは火星を抑制状態に保ち、その破壊の原因となった。土星のG7の次の破壊対象は、青い惑星である。

ビル・クリントンは、ジャッキー・オナシスの秘密情報から、注意深く取り扱われている火星の証拠に至るまで、知るべきことすべてを与えられた。彼の 50 回目の誕生日、<青い月の夜>は、彼の「決断の日」。危険度も注目度も、火星の破壊以来、かつてないほど高い。ひとたびクリントン大統領が、この最終的な火星の証拠を得たとき、決めるのは彼だ。彼自身の魂を救い、G 7を分裂させるか、もしくは「アラーにすべてを委ねる」か。

そう、火星の事実証拠を公開するにあたっては、注意深くその時が定められいる。それも軍司令官や銀行家、軍需品の生産者の秘密会議によってではなく、アラー、すなわち隠されたものと明かされたものすべての至高の知者によってである。なぜ火星の事実証拠は、権力を持つ者にとって、そんなにも恐ろしいことなのだろうか? それは、私たちの生命が他の世界にもあったという事実が、多くの疑問を提示することになるからである。その世界で、私たちの生命に何が起こったのか?、私たちは何かまちがったことをしているのか?、あらゆる兆候があったにもかかわらず、私たちはまちがったことに固執していたのか?、私たちはどのように罰せられるのか?、と。

ヘール・ボップ彗星がグレゴリオ暦の年末か来年初頭、預言の第4年、「青い自己存在の年」の中ごろに、地球の近くを通り過ぎる予定になっている。身に覚えのある話のように聞こえるだろうか?この彗星あるいはその隕石が、もともと火星の物質を青い惑星にもたらしたのか? 今回、この彗星の尾は、別な世界に残されていた何かを拾い上げ、地球に持ってくるのかもしれない。だがそのときまで、もうひとつの残存物である、審判の日はこれ以上引き延ばされることはないのではないか?そう、いまは審判の日で、火星が呼びかけている。「誰か、この呼びかけにどうか応答を!」と。

ハーモニック・コンバージェンス:9周年の宣言

1996年7月25日、<白い電気の鏡>の日。その日は「時間をはずした日」であり、火星のバイキング探査が最初に火星の人面という運命的な写真をとった日から、ちょうど20年が経過した日だった。青い惑星の中で最も巨大な都市、メキシコシティのあちこちで、「7月25日、独立記念日」と書かれた謎のサインや掲示板が掲げられていた。その言葉の下には、大きなUFOの母船が外宇宙から不気味に突き出ている絵が描かれていた。

曇った空の下、黙想した火山のふもとにある、その巨大都市の別な場所では、約300人の人々が 集まっていた。「時間をはずした日」を称え、惑星音楽のコンサートに集うことが、その集会「人類 のハーモニック・コンバージェンス」の仕上げとなった。そこには、イスラムの神を召喚する祈り、 ペルシアのフルートとボーカル、スペインのフラメンコ、日本の琴と尺八といった幅広い音楽表現や、 ブラジルのカポエラ、さらにはピアノと交響曲の演奏もあった。そのコンサートは、ティネッタ・ム ハンマドが催したものだった。彼女は、エリヤ・ムハンマド閣下の未亡人であり、そしてイスラム共 同体の「忠誠の母」である。全体として織りなされた演奏のすばらしさは、文化による平和の原理を 示すものだ。

翌日、「人類のハーモニック・コンバージェンス」は、「神が大地に触れた場所」として知られるテオティワカンという古代都市を練り歩く、歴史的に前代未聞の儀式となった。その儀式の最後は、壮観な「ケツァルコアトルの城壁」で、平和の旗、虹の旗、地球の旗に取り巻かれた新しい時間の使者、ロイディーン&ホゼ・アグエイアスが、はじめての世界平和を宣言した。「惑星地球上には新しい共同体、生物圏の権利の共同体がある」と、ホゼ・アグエイアスは断言する。「その共同体は、平和そのものであり、そして4年間のはじめての世界平和、1996~2000年を実行に移す」。

「人類のハーモニック・コンバージェンス」は、新しい共同体の集まりを補完する最初の試みだった。その新しい共同体は、ブラジルのブラジリアで、グレゴリオ暦では同じ年にあたる、預言の第3年の太陽の月のあいだ(1996年3月17日~21日)に開かれた「第一回・生物圏の権利の惑星会議」で確立されたものだ。この会議の目的は、シンプルで論理的なものである。すなわち、グレゴリオ暦に埋め込まれた古い誓約とすべての制度にとって代わる、「13の月の暦」と一致した新しい誓約と決議事項を創造すること、である。興味深いことに、その集会の10日前の3月7日、激しい「UFO活動」がやはり同じブラジリアのホセ・フラガ氏の広大な敷地内、もしくはその上空で起こる。このUFO活動は、フラガ氏の庭の芝生に、ミステリー・サークル状のしるしを残す。そして、来たる「生物圏の会議」に注意を払うようにとのテレパシー・メッセージが彼にもたらされた。

フラガ邸の芝生のミステリー・サークルは、米国の「フォーコーナーズ」を中心に描かれた円とまったく同じ形をしていた。フォーコーナーズは、ユタ、コロラド、アリゾナ、ニューメキシコの4州の人工的な州境を示す十字の線が交差する、円の中心にあたる。そして、このフォーコーナーズこそ、水晶の月28日の13:13、1996年6月26日の夜明け前に「境界溶解の儀式」が開かれた場所であり、そこに使者ホゼ&ロイディーン・アグエイアスと600人の集団が集まった所である。ブラジリアではためいたのと同じ旗や平和の旗が、後にテオティワカンでもはためくことになるのだが、それらの旗が州旗や国旗のかわりにフォーコーナーズで掲げられた。「13の月の暦に替える平和の運動」は、行進する。アグエイアスの言葉では、この運動は「次の千年紀の新しい人類共同体」である。

そう、「世界規模で13の月の暦に替える平和の運動」と、「第一回・生物圏の権利の惑星会議」の新しい誓約や決議は、1987年8月16~17日のハーモニック・コンバージェンスを直接、成就したものである。それから9年を経て、「13の月の暦に替える平和の運動」が提示するほどに、包括的かつ「調和的に収束」している他の運動や平和の計画はない。この運動は「Babble(※訳注:「意味のない言葉、たわごと」の意。Babelにかけている言葉)の塔」の完全な記憶喪失からトータル・リコールに戻る唯一の道である。

1996年8月16日、<黄色い水晶の太陽>、磁気の月22日、預言の第4年、「勝利は確立する」の第一の「戦士の旅」の完了の日は、「火星上での生命の科学的な発見」の公式的な発表がなされ、次の「ハーモニック・コンバージェンス9周年の宣言、回帰のないポイント:地球上での生命の科学的な回復」がそれに続く。

回帰のないポイント:地球上での生命の科学的な回復 ハーモニック・コンバージェンス9周年の宣言

9年、時間の9人の主たち、それぞれの年にそれぞれの時間の主が一人で、大きな発表と宣言の用意が整う。「そう、地球上での生命の科学的な回復がある。この地球上での生命の科学的な回復は、偽りで人工的な12:60の計時周波数、そして真の自然で銀河的な13:20の計時周波数の復活によるものである。この科学的な回復は、世界規模で13の月の暦に替える平和の運動によって喚起され、惑星芸術ネットワークの形をとる。すなわち、地上の文明と呼ばれる生命の墓にとってかわるテレパシーの編み目である」

9年前、ハーモニック・コンバージェンスが呼びかけられた。14万4千人が「回帰のないポイント」を交差した。このポイントとは、偽りの時間の呪いがその猶予期間を過ぎた時点である。偽りの時間の「回帰のないこと」とは、次のようなことを意味する。すなわち、政府に回帰しない、課税制度に回帰しない、金銭に回帰しない、戦争に回帰しない、麻薬に回帰しない、バーチャル・リアリティに回帰しない、そしてハリウッドのバビロンという偽りのパラダイスに回帰しないことだ。9年、そして集合的・宇宙的な無意識の時間の力を司る運命の9人の主たち。7年間は、醸造された時間をかき回すのに使われた。残りの2年間は、集合的・宇宙的な意識に向けられた真の時間の回帰を用意した。

この9年間で、やっと真の時間、13の力の勝利を宣言する時が来た。9年、運命の9人の主たちが、13の月・28日の暦、人類の自然な生物圏の時間制御装置に帰ってくる。9年間で、人類文明の病を担った地球を癒す治療薬が用意される。その治療薬はすべての人に手に入る用意が整っている。13の月は、歩く道。13の月は、語る道。13の月は、普遍的なテレパシーに回帰する道。もはや12か月という火星の記憶喪失はいらない。ここには、目覚めた集合的な宇宙意識のテレパシー的な人類のホットライン上で、トータル・リコールを引き起こす13の月がある。

さらに、はじめての世界平和を確立する4年間。創造的な平和、ほんとうの平和、真に永続する普遍的な平和。生活方法としてのハーモニック・コンバージェンス、やっとトータル・リコールがやってきた。次の千年紀の新しい人類共同体が庭園へと回復される。人生はもはや「○○商会」に対する堕落した借金とはならないだろう。やっと誰もが「毎日の芸術」を生きる生活を取り戻せる時が来た。時は芸術なり。私たちが生きている人生は、私たちの求める儀式である。生物圏は聖なる計画。生物圏との再会・統一は、第二の創造である。

運命の9人の主たちは、天使の位階の中で公表する:

「そう、結局のところ、地上には生命がある。地球は、もはや機械の生み出す人類が毎日、自分たちの造りだした地獄の迷宮回廊で動き回るものではなくなった。赤い惑星上での生命を思い出さないという呪いから解放された青い惑星の人類は、あがなわれる。サタンは、放り出される。生命の回復、真実の回復、愛の回復。ひとつの家族、ひとつの血、ひとつの心、ひとつの息、ひとつの海、ひとつの宇宙普遍生命。生物圏的な自由、銀河の解放、ひとつの芸術の惑星ネットワークが、ひとつの有機体によって人目につかないように隠されており、その集合的・宇宙的な意識において統一され、みずからを真実、正義、愛で調和的に収束し、来たるべき7つの世代がやってくる」

「この宣言に注意を傾けることのできる人類の構成員よ、おめでとう! 新しい時間はここにある。 テレクトノンが宣告され、届けられた。あなたがたの誓約と権利は、準備された。あなたがたの銀河 のアイデンティティをいま受け入れよ。銀河文化の時間、地上の天国がやってきた。勝利の52日間 は完了する。時は芸術なりの秩序を確立せよ。惑星芸術ネットワークは、誤った時間の灰から飛び立 つ不死鳥。勝利の炎は、惑星の極から極までに広がる光。そう。地上の生命は回復された。勝利はす べての預言の成就を確立する」

PANエージェント 24 により、 アルクトゥルス監視チームのために提出される 預言の第 4 年 磁気の月 18 日、立方体 12 キン 2 1 6、黄色い銀河の戦士

白い水晶の世界の橋渡し 「赤い惑星、青い惑星」のアップデイト

時間の新しい知識は、毎日、惑星間の力の情報をもたらす。それは銀河スピンを構成する260キンの流れをテレパシー的にコード化したものである。太陽系には、破壊されたマルデク/アステロイド・ベルトを含むと10惑星があり、2つの紋章ないしは部族がひとつの惑星に対応し、全体で20の紋章ないしは部族がある。銀河スピンの中にある20のウェイブスペルの流れの中で、この惑星間のコーディングは、ひとつの惑星につき二つのウェイブスペルに合致する。

唯一、二つの惑星だけが、それぞれ互いに隣接したウェイブスペルを持っている。ひとつは火星:ウェイブスペル5の空歩く者、ウェイブスペル6の世界の橋渡し、もうひとつは土星:ウェイブスペル 15 の夜、ウェイブスペル 16 の戦士である。テレクトノンの回路図では、第4軌道の火星と第7軌道の土星は、外部化する知性の回路を維持している。テレクトノンとドリームスペルの宇宙論で、土星の銀河のカルマ的な力である「豊かさ」は、G7(銀河の第7軌道)の物質主義、バベルの塔の頂点へと堕落させられている。

これにより、銀河のカルマ的な土星の物質主義は、銀河のカルマ的な火星の世界の橋渡しの死の力を圧倒し、赤い惑星の破壊の原因となり、さらには青い惑星の住人をバビロン捕囚に閉じこめる催眠的な魔法として死の恐れを生じさせた。この物質主義と死の恐れの組み合わせから生じた最終形態は、「仕事の呪縛」として知られるものである。すなわち、週5日の賃金労働のために身体を売ることができなくなったらどうしようという、貧困、恥じらい、さらには死の脅威である。アメリカは、労働人口の95パーセントが「仕事の呪縛」にかかっていることを誇りにしている。したがって、自分の仕事がマクドナルドで冷凍されたハンバーガー用の肉を運ぶことであれ何であれ、あなたはバビロンの月次統計の中にはっきりと組み込まれているのだ。

水晶の円卓の流れも、ウェイブスペルの流れに従う。したがって風のウェイブスペルの最後の円卓の日は、太陽の預言的な火星、赤い水晶の空歩く者によって開かれ、それから 13 日後の鷲のウェイブスペルの円卓は、銀河のカルマ的な火星、白い水晶の世界の橋渡しによって開かれる。 J F K は、銀河のカルマ的な火星、白い惑星の世界の橋渡しであり、ビル・クリントン大統領は、太陽の預言的な火星、赤い自己存在の空歩く者である。この二つの火星の力、すなわち預言(空歩く者)と死(世界の橋渡し)は、これら二人の大統領の運命の中で絡み合っている。ひとりが成就できなかったことは、もう一人が立ち向かわなければならない。

1996年8月19日、磁気の月25日、ビル・クリントンの50歳の誕生日に、彼は青い月の夜に

なった。風のウェイブスペルの2番目のキンである。これはG7を分割する(13 の月の)分極化する月の力を示す。クリントンが意志するかどうかにかかわらず、彼の行為がバベルの塔(G7)を分割する。それが二つに分割されたときに、彼がバベルの塔の中に居続けるかどうかは、別な問題である。現在そうであるように、ホワイトハウスは、この歴史の終わりの時点でバベルの塔の頂点に位置している。イラクのバグダッドは、歴史のはじまりからバベルの塔の底辺に居続けている。

イラクの飛行領域上にある仮の「飛行禁止地帯」の中の米国軍の保護は、権力と利己的な正義に酔いしれた情熱の火種となっている。ネブカデネザルの新バビロニア帝国(サダムフセインは自分のことを第2のネブカデネザルになぞらえている)は、イスラエルの子供たちがとらわれの身になっていることを見たが、そのことは「ダニエル書」に良く描かれている。ダニエルの「70の7」(※訳注:定められた70週の意味)のヴィジョンは、エルサレムの神殿の崩壊と来たるべき「聖別された者」の終わりを詳細に描写する。「ダニエル書」は、終わりの時や北と南の王のあいだの戦いを詳細かつ謎めいた形で描写して終了する。第2次世界大戦後にシオニストの銀行家と西洋の帝国主義者の権力によってイスラエルという国家が創設されたことは、終わりのはじまり、あるいは時の終わりのはじまりをしるした。神殿は過去、二度にわたり破壊され、イスラエル人は四散した。この最後に神殿が破壊されてから約20世紀が経過して、彼らが再びひとつの場所に集まったことは、終わりの時のしるしとしてのみアラーに許されている。

「また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。 しかしその時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます。また地 のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者 もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」

「それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民を打ち砕く力が消え去る時に、これらの事はみ な成就するだろうと言うのを、わたしは聞いた」

(「ダニエル書」12:1~7)

誠実に扱われなかった一人の人間あるいは人々全体は、それまでまったく認知されなかった事柄として、投影された現実の中に現われるまでは、無意識の中にひそむことになる。この誠実さの欠如が深まり、また長いあいだ続けば続くほど、この投影された現実の現われはますますアポカリプス的な様相を呈する。これがゆえに、惑星道徳の緊急事態911が呼びかけられた。すべての要点を記した警告ブレトゥンが、すべての世界のリーダーたちに差し向けられる。白い水晶の世界の橋渡しは、火

星の表面から上を見上げている。はるか離れた青い惑星上で揺れ動く雲の積み重なりのすすけたような渦の中に見えるものは、どれほど奇妙な深みを持っていることだろうか。青い惑星に向かって共感の光線を送る、白い水晶の世界の橋渡しは、この円卓の日にそれが公になるべく、赤い自己存在の空歩く者に、次の手紙を送る。

メッセージ:親愛なる大統領へ:

どうか、同封の「惑星道徳の緊急事態に対する住民投票」をごらんください。

惑星道徳の緊急事態に対する私たちの呼びかけは、先週なされたイラクとサダム・フセインに対する道徳的に弁護の余地のない軍事行動に直接由来するものです。

ジョージ・ブッシュによってはじめられた復讐を成就するあなたの義務は、あなたが外交政策上の 弁解としてこのように向こう見ずな軍事行動を引き起こすかぎり、ただあなた自身にふりかかる災難 となるだけです。私たちは、実際にはあなたが統治権を持っておらず、G7の政策がすべてを管理し ていることを知っています。あなたのエゴは、その管理に同一化しているかもしれませんが、あなた の魂は苦しんでいます。「剣によって生きる者は、剣によって滅びる」。この政策が火星上の生命を破壊したのです。あなたは、地球上の生命を破壊する者となりたいのですか?

「13の月の暦に替える平和の計画」、「第一回・生物圏の権利の会議」、そして「はじめての世界平和」は、平和のために合法的にはこれまで試みられたことのない戦略によって成り立っています。もしあなたが真摯な態度を持っているのであれば、注意を払ってくださるでしょう。あなたには、軍事的、産業的な体制の駒になる以外にも、真の英雄になるチャンスが残されているのです。

真実は愛。寛容は正義。平和は永遠。

ホゼ&ロイディーン・アグエイアス、コーディネーター

追伸。大統領、あなたはこれまでサダム・フセイン氏に会ったことはありますか? 彼と直接、話をしたことは? どうして彼に電話をして、すこしおしゃべりしてみないのですか? どうして彼との会合の席を設けて、彼と面と向かって話をしないのですか? 彼に本心を尋ねてみたらどうでしょう。また、「政治的に正しい、政治的に正しくない」というドグマは、あまりにもあなたを締め付け、あなたの人道主義はこんなにも小さなものになってしまったのでしょうか? ところで、サダム・フ

セインは、青い水晶の鷲です。彼は種のウェイブスペル 12 の円卓を維持しています。このあなたに対する手紙を公共に公開する日は、白い水晶の世界の橋渡しで、それは鷲のウェイブスペル 19 の円卓を維持しています。白い水晶の世界の橋渡しは、青い水晶の鷲 (サダム・フセイン) の神秘の鏡 (反映) の関係になっています。彼に向けられたあなたの言葉と行動に対して、彼がどれほど奇怪で無意識の行為で報復するでしょうか?

「それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民を打ち砕く力が消え去る時に、これらの事はみな成就するだろうと言うのを、わたしは聞いた」と「ダニエル書」には書かれています。「・・ひと時とふた時と半時・・・」とは、日々、あなたが道徳的に乱れた行為をすることを促す偽りの時間の加速のことを指しています。偽りの時間が私たち全員に覆いかぶさっているという、夢の混乱状態から目覚めて、啓示に満ちた真の時間と神を中心とした意識へと入り込むことです。楽園への地図は、すでに手渡されています。それは、完全に平和裡に刻まれています。この地図は、正義の者たちの庭園へと導く13の月を示します。もう、爆弾はいりません。大統領。終わりの時なのです。古いゲームは終わりました。あなたは本当に世界のその他の地域のことを知っていると思いますか? 選択という重荷はいまもあなたの元にあります。どうか、あなたに神の思し召しがありますように。

アルクトゥルス監視チームのために提出される

預言の第4年、勝利は確立する 月の月20日、キン246 白い水晶の世界の橋渡し

アルクトゥルスの監視

青い銀河の嵐の年・自己存在の月9日 KIN 191 (2000年10月26日)

著者:ホゼ・アグエイアス

編訳:高橋 徹

編集・発行:PAN ブックレット帯広